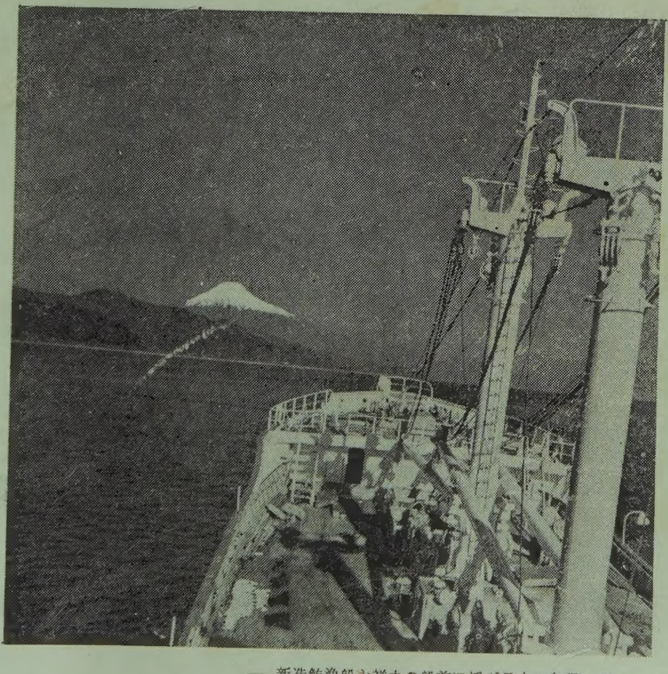
鮪漁業 第三十六号 昭和三十二年一月十日発行（毎月一回十日発行）

MAY 1958
LIBRARY

鮪漁業

Tuna Fishing

新 年 号



—新造鮪漁船永祥丸の船首に浮ぶ日本の象徴・富士—

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY *** JAPAN ***

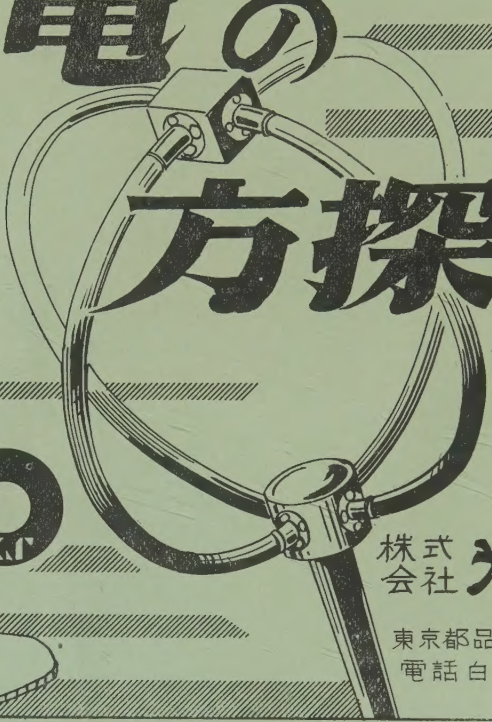
鮪 漁 業 研 究 会

No. 36, 1957

謹賀新年

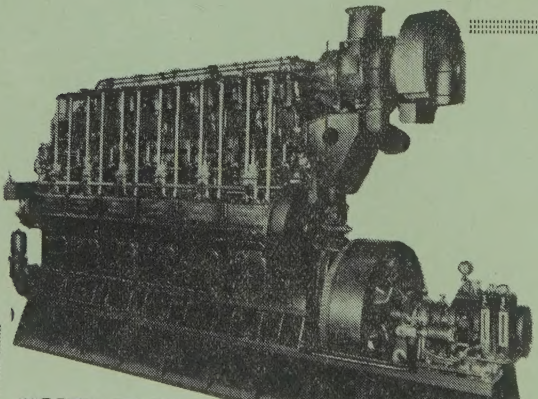
光電の方探

全方向
自動直視式



株式会社 光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金(44)代表1131～5



船舶用6ZS型1200 BHP 過給機付
ディーゼル機関 (クラッチ付)

ハンシン ディーゼル

陸舶用ディーゼル

50 HP——2400 HP

阪神内燃機工業株式会社

本　　社	神戸市長田区一番町1丁目	電話 湊川（5）1531—6
東京支店	東京都千代田区丸ノ内・丸ビル601区	電話和田倉（20）3640—1
下関出張所	下関市豊前田町・第一ビル内	電話 下関　768

年頭の詞

神奈川県知事　内山岩太郎

昨年は日ソ国交交渉の成立に次いで戦後十年の宿願であつた国際連合への加盟も実現し，日本の国際的立場は画期的に強化された年であります．一方日本の鮪漁業界にとつても太平洋，印度洋漁場から更に遠く太西洋にまで進出した年であります．現に県の新鋭指導船相模丸は約一カ年の予定をもつて同方面の漁況，並に市場の調査を行つておりその他民間船で太西洋方面に出漁しているものも二，三に止りません．

戦後十年にしてわが国の鮪漁業がこの様に大きな発展を遂げた原因は一に漁業者諸君のあらゆる困難を乗切る不屈の精神と卓抜なる漁ろう技術，加うるに最新の科学的装備を取り入れて建造された優秀なる大型漁船の出現によるものと考えますが，又この数年来黙々として地味な資源問題の調査解明に全力を尽している水産試験場の職員諸君並にその成果を漁業者と一体となつて研究し実地の応用，普及に努めてこられた鮪漁業研究会の陰の功績も忘れることの出来ないものであり深く敬意を表する次第であります．

昭和三十二年は色々な意味でわが国の鮪漁業の真の発展を期待される年であります．多くの困難はありましようがあくまでも国際的な漁業の第一線に立つているという自覚の下に一層の御活躍あらんことを祈つてやみません．

年　頭　雑　感

神奈川県水産試験場長
永　井　三　夫

鮪漁業界の進歩はめざましいものが有る．なぜこの様に発展するのかそれはこの企業が有望と認められるからであろう．水産庁では鮪資源保護の為終戦後より許可制度を取り現在に及んでいる．

然し何人も想像もしなかつた千トンに及ぶあらゆる近代科学を取入れた優秀漁船が続々と進水して居る．そしてジヤワ沖にアフリカ沖に或は船団編成で鮪群を攻撃して居る．優秀漁場は次々に攻略され壊滅して行く．

或る学者は云う．鮪は一尾が数万の卵を持つて居る．資源の問題から云えば未だ未だ取つても心配は無いと．

然し現実の問題として漁獲率は低下の一途をたどつて居る．漁獲率が減少すれば漁獲努力の増大，機械化に依る作業能率の向上に依り生産の維持を計ろうとする．

この様な方式で科学化されて行くのを鮪漁業は大いに発展したと経済人は云つて居る．

私達は有望な事業が乱獲に依り壊滅して行つたいくつかの事例を知つて居る．カルフオルニア沖の鰯漁業，保護条約の出来る前のオツトセイ漁業等，今年のサンマ漁業も乱獲に依る結果ではなかろうか．幸い鮪漁業の漁場は全世界の海洋が漁場であり特定海域に生棲する魚種では無いので新漁場の開拓に依り或る程度の維持は可能であろう．

然し同じ病気であつても急性の病気は本人の自覚に依り手当も充分出来るが徐々に悪くなる慢性的悪化症状はついみのがして気の付いた時には如何ともしがたい状態になるのと同じ様に漁場が広い，卵が一尾で数万有ると云う様な漫然とした安心感があと四，五年も続けられたら．はたして今の鮪漁業はどうなるであろうかと心配するのは私丈では無いと思う．

幸い本会の様な研究を主体とする鮪漁業者の団体が有り，すでに三年間研究が続けられ本漁業の恒久的安定を目的として研究が進められて居ることは，他種漁業に見られない進歩的な考えである．鮪漁業の真の発展は漁船を機械化や大型化する丈でなく其の資源の問題を明解にして其の上に立つてこそ本漁業の発展が有るのだと思う．是非とも本会の発展に会員各位の御努力をお願いすると同時に私達も全力を揚げて御後援申上度いと思う．

年 頭 の 所 感

大洋漁業株式会社三崎営業所長

長　崎　勝　平

全国の鮪漁業者の皆様，御芽出度う御座います．会誌「鮪漁業」が日夕進展の途を辿り今や業界の指針として炳として輝かしき実績を挙げていることは誠に御同慶に堪えません．

顧り見すれば昨年度の鮪漁業界は超大型漁船や大型漁船の経営が漁艇式や附属漁船の利用等の運航方式にて，又小中型漁船も魚価の安定等などにて一応の成績を挙げて来ました．然し一部の業者に於ては戦後十年を経て如何なる結果に落入りつつあるかの現実は，私達をして今後の経営に深い反省を促すものがあることを無視する訳には行きません．

さしも広大と優秀を誇つた印度洋の漁場さえも今や其の前途は必ずしも楽観を許さない現状になりました今日，愈々大西洋の漁場の開拓こそ本年度私達に課せられた大使命と信じます．然し之に伴うて起きる，基地をどうするか，仲積式操業が可能か，大陸市場の開拓が出来るか，等の諸問題を如何に解決するかが本年度鮪漁業界の重要課題でしよう．

全国の鮪漁業者が真摯にこの問題に取り組まれ，鮪漁業研究会が又その優秀なる能力を十二分に発揮し調査研究資料を整備せられ，関係官庁にも十分なる御理解を願えることこそ本問題解決の焦点ではありますまいか．

然る上は本年度の鮪漁業界は更に躍進し名実共に世界の鮪漁業の名を冠する日も遠くはないでしよう，その日の一日も早からん事を祈念いたし所感といたします．

新　年　の　辞

鮪漁業研究会長　菅　野　進

新春を迎え会員の皆様に謹しんで新年の御挨拶を申し上げます.

鮪漁業は今年こそ重大な段階に来たと思われます. 生産能力は拡大強化され一見非常に本漁業が発展した様に見られますが, 経済的には未だ戦後復興時の弱体が一部に抱えられて居ります.

生産は日増に増強されますが, 之に対する資源の問題は未だほとんど研究されて居らず, ただ統計的に見ると現環境では漁獲率が減少し, 鮪資源は現生産を維持するには困難な状況にあると推定される程度であります.

業界の皆様はこれに対応する経営の合理化と能率増進に努力されて居ること思います.

本研究会としては皆様の事業を学術的に御手伝いしつつ, 漁場の実体を究明し本漁業が基礎的に安定する様努力致して居ります.

詢に遅々としては居りますが, 本会もこれで四年目の春を迎えました. 本会の存在がいくらかでも皆様の事業にプラスする所があれば会長として喜びにたえない所です. 今後ともよろしく御指導御鞭撻を御願して新年の御挨拶にかえさせて載きます.

―― 目　次 ――

年頭の詞……………………………………………神奈川県知事　内山岩太郎

年頭雑感……………………………………………神奈川県水産試験場長　永井三夫

年頭の所感…………………………………………大洋漁業株式会社 三崎営業所長　長崎勝平

新年の辞……………………………………………鮪漁業研究会長　菅野　進

鮪漁船紹介　第一清寿丸　第十八事代丸　第十薩州丸　永祥丸

鮪漁場図　（昭和31年6月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考案

（昭和31年6月現況）（昭和32年1,2,3月予報）……… 1

1. 調査の概要…………………………………………………… 1

2. 昭和31年6月の漁況の概要…………………………………… 1

3. 昭和32年1.2.3月の漁況予報………………………………… 2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和31年6月操業分）別表1 ……… 6

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和31年6月操業分）別表2 ……… 8

会員レポート　中部印度洋6.7月の海況，漁況の現状…………第一さつま丸船長 会員　神原　勇……14

マグロの外部形態の比較について（承前其の2）…東京大学　檜山研究室　鉄　健司……15

昭洋丸南太平洋マグロに漁場調査概要　……………水産庁………19

相模丸による大西洋鮪漁場開発事業第一次航海の概要　……………23

濠洲マグロ試食会記……………………………会員　野村俊造……26

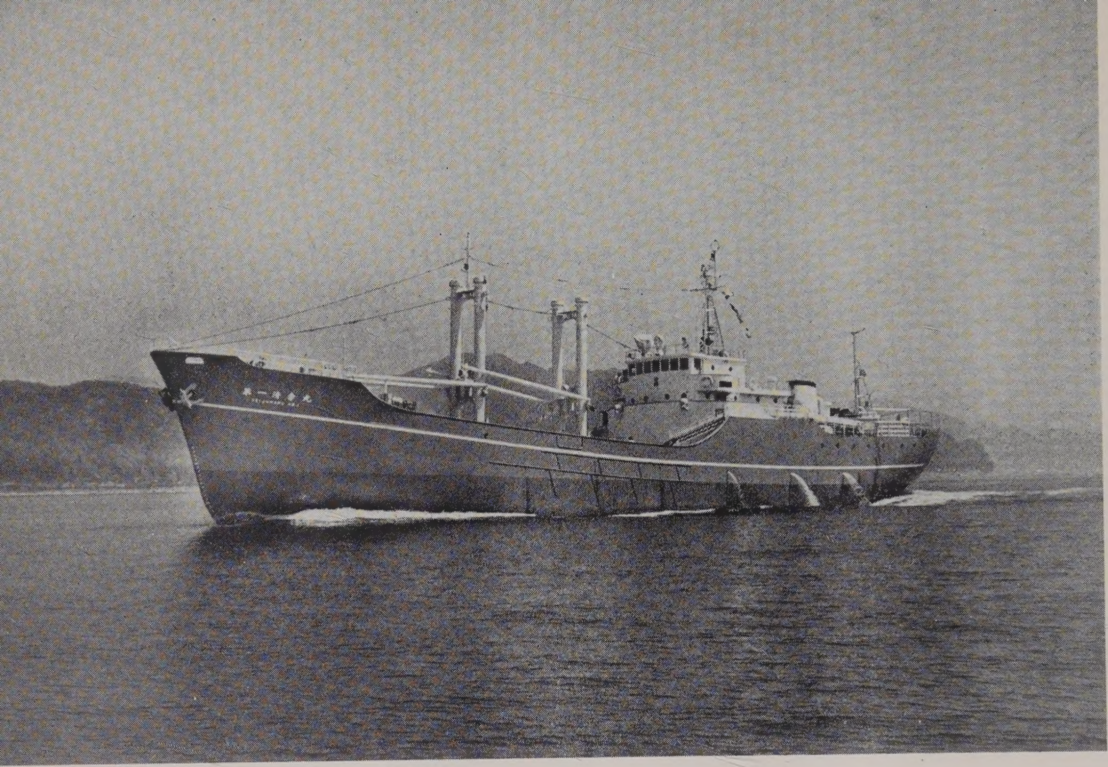
鮪類標識放流について……………………………………27

鮪類水揚価格表（三崎）昭和31年11月………………………27

昭和32年水産界の目標……………………………岩吉若之助……28

鮪類漁場別価格表　昭和31年10月（三崎）………………農林事務官 佐藤　務……30

TRANSLATION IN
REPRINT FILE



第一 清寿丸

船主	清寿漁業株式会社
造船所	株式会社金指造船所
主要寸法	長 5.90m×幅11.00m×深5.30m
総屯数	1,058.85屯
魚艙容積	1.368m³ (17万貫)
燃料油艙	430.6m³
速力	最大 12.99節
主機	デーゼル 1200HP (過給機付) 1基
補機	デーゼル 240HP 2基
無線	500W 75W 30W 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 90HP 3基
工作機械	綜合旋盤 (4呎2HP) 電気熔接機 (200A) ガス熔接切断機 各1式
レーダー、ローラン、方探、音響測深機其の他各1式	
竣工	昭和31年8月3日

謹賀

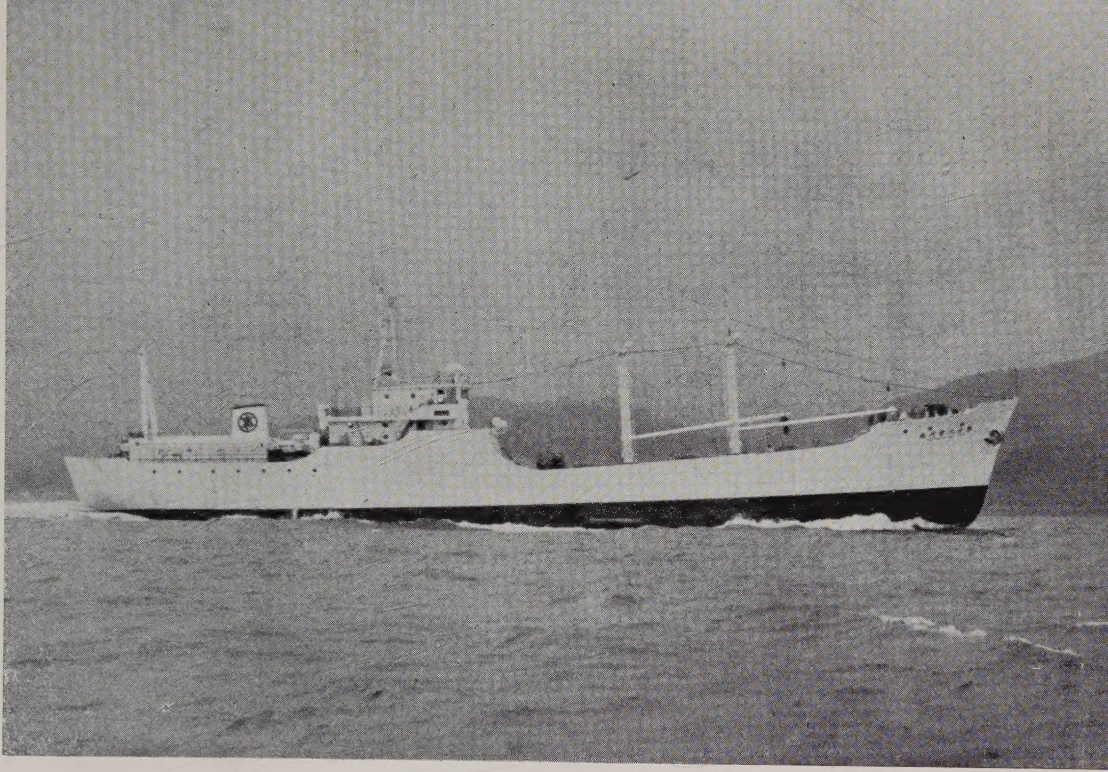
東京都渋谷区衆楽町四八
電話渋谷(46)代表五二八三～九

株式会社
光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸二八四の一
電話白金(44)代表一一三一～五

株式会社 金指造船所

本社工場	清水市三保4010—19	電話 清水 2380～2 3796～7
塚間工場	清水市三保弁天492	電話 清水 3870～7
東京事務所	東京都港区芝田村町3ノ4	電話 芝(43)7296～8
三崎出張所	三浦市三崎町西野34	電話 (三浦) 851



第十八 事代丸

新　年

七洋電機株式会社

東京都目黒区中目黒四の一、三一五
電話荏原(78)四一〇三・二五二五

太洋無線株式会社

船主	事代漁業株式会社
造船所	株式会社金指造船所
主要寸法	長59.91m×幅11.00m×深5.30m
総屯数	1.087,89屯
魚艙容積	1.378m³
燃料油艙	3.853,4m³
速力	最大 13.628節
主機	デーゼル 1.500HP 1基
補機	デーゼル 250HP 2基
無線	500W 75W 15W 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 90HP 3基
搭載艇	魚艇、伝馬 各1隻
レーダー、ローラン、方向探知機、音響兼魚探機、ヂャイロコンパス、ベルトコンベヤー其の他	各1式
竣工	昭和31年9月30日

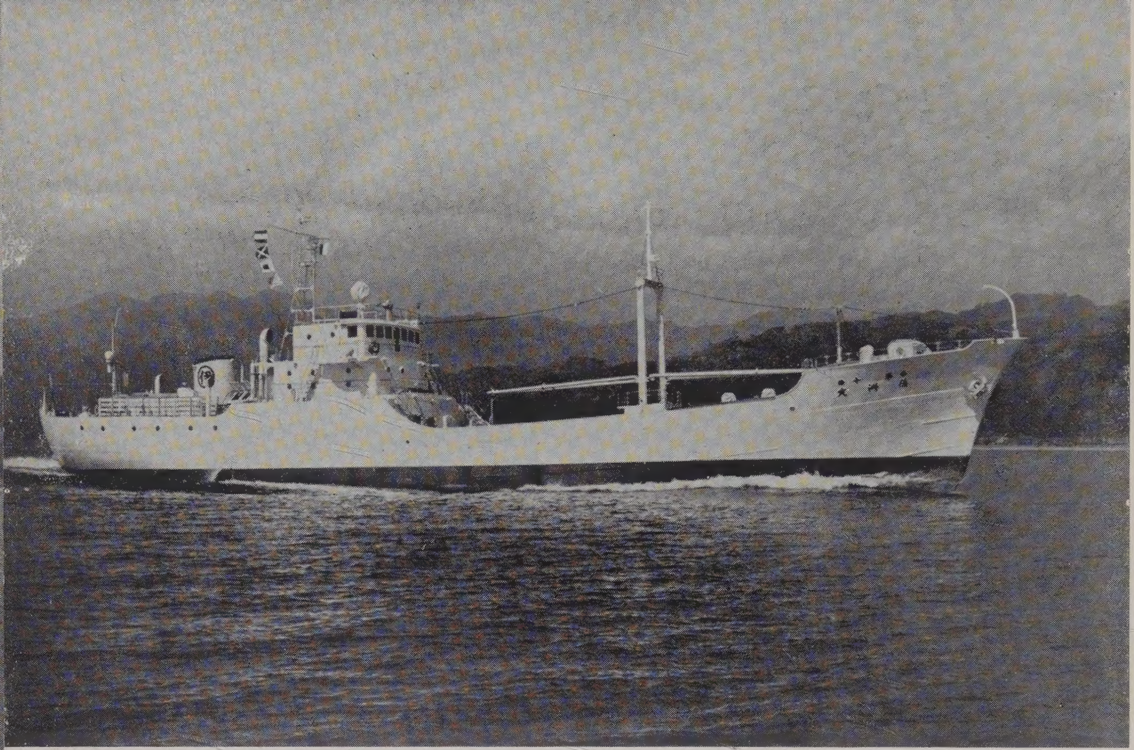
漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本社	大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）	TEL. 北浜（23）9736—7（直通）1334.2351.9531
東京支店	東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）	TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所	清水市三保本村四区	TEL. 清水 3507
三崎連絡所	三浦市三崎町西浜46 山久商店	TEL. 三浦 443

施工船名

第18事代丸
第10薩州丸
第18海幸丸
第28住吉丸
第8明星丸
第15千代丸
（其の他約参百隻）



第十 薩州丸

船主	伊藤漁業株式会社（三浦市）
造船所	株式会社三保造船所
主要寸法	長 52.00m×幅9.00m×深4.45m
総屯数	641.03屯
魚艙容積	675m³
燃料油艙	297.27m³
速力	最大 13.78節
主機	デーゼル 1,200HP（過給機付）1基
補機	デーゼル 200HP 1基
無線	200W 75W 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式50HP75HP各1基
レーダー、方向探知機、音響測深機其の他	各1式
竣工	昭和31年10月2日

謹賀

東京都台東区浅草橋二の三
電話浅草(84)代表八、二六一〜八

強くて安くて腐らない
○延縄に絶対経験と
信用のあるメーカー

クレモナ
テビロン

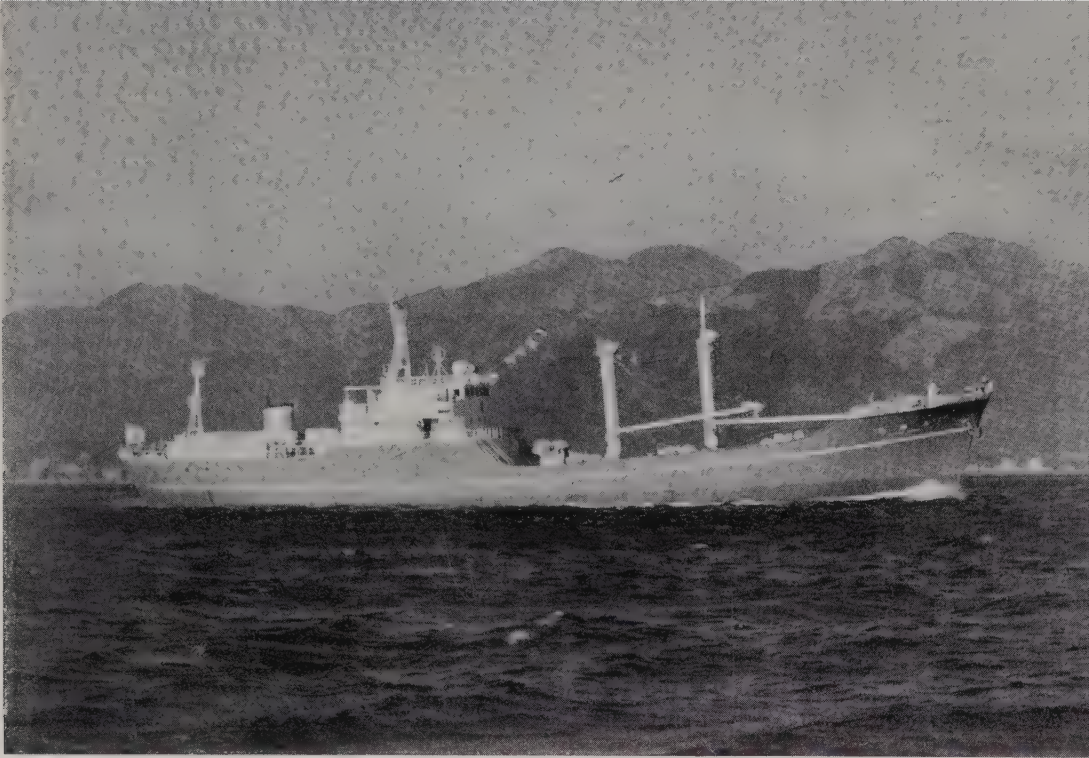
国産製麻株式会社

本社 東京都中央区京橋三の四
電話東京(28)六六〇五〜六

株式会社 **三保造船所**

本社 静岡県清水市三保 3767 電話 代表 2200

東京事務所 東京都中央区八重洲3の7 東京建物ビル705 電話(27)5522.6775



永　祥　丸

船主	報国水産株式会社
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長59.91m×幅11.00m×深5.80m
総屯数	1,098.88屯
魚艙容積	1,378m³
燃料油艙	431m³
速力	最大　13,255節
主機	デーゼル　1,500IP（過給機付）1基
補機	デーゼル　250IP　2基
無線	500W　75W　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式　90IP　3基
レーダー、ローラン、方探、音響兼魚探、チャイロ、ベルトコンベヤー、其の他	各1式
搭載艇	魚艇、伝馬　各1隻
竣工	昭和31年12月10日

多年の経験・最高の技術を誇る

株式会社　新潟鉄工所

本社　東京都千代田区九段1丁目6番地　電話（33）8391・8491
支社　大阪、新潟　営業所　名古屋、札幌、下関
三崎地区サービス・ステーション、新和内燃機工業所　三浦市三崎町仲崎227電話三崎234

新　年

綿鮪延縄・綿撚糸製造販売
倉敷レイヨンK.K.クレモナ
延縄指定工場

山田撚糸株式会社

本社工場　八尾市大字亀井
電話（東住吉）二、五五六 一一三
東京営業所　東京都品川区西戸越二の六七・
電話（荏原）六五五二

クレモナ延縄
東京製綱株式会社

謹賀新年

▷最高の技術――永い信用◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場	東京都北多摩郡狛江町和泉150	電話砧(41)(代)7171―9番
		電話武蔵調布472番
東京営業所	東京都港区芝西久保桜川町9	電話芝(43)代表7373―9番
大阪出張所	大阪市北区中之島2の25(江商ビル508号室)	電話北浜(23)4553番
福岡出張所	福岡市天神町55(伊藤ビル)	電話中(4)2589・8198番

海図誌の御買上は……

日本郵船株式会社海図販売所

三崎出張所へ!!

代行者　宇津木航海計器製作所

日本及び米国水路部図誌　海事図書販売

航海計器の御相談は……

有限会社　宇津木航海計器製作所

三崎出張所へ!!

三浦市三崎町花暮一八一番地
三崎港遠洋漁船船員消費生活協同組合内
電話三浦八七五番

営業所　技術部　横浜・工場　本牧

六分儀・クロノメーター・甲板時計
双眼鏡・バロメーター・インヂケイター・船舶時計・コムパス・各種航海用測器類
――販売・修理

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和31年6月現況）（昭和32年1, 2, 3 月予報）

三　崎　　鮪漁業研究会　　（調査研究部）
神奈川県水産試験場（調査研究部鮪資源担当）
東京、焼津　南海区水産研究所　　（遠洋資源部）

1 調査の概要

昭和31年6月分として調査せる鮪延縄船数は三崎21, 東京35, 焼津8, 計64で, 旧南洋庁沿海附近と東部印度洋, 中・西部印度洋の赤道以南が増え, セイロン海区は激減している. 体長測定せる隻数は36, 調査海区数は18で共に稍増加している.

2 昭和31年6月の漁況の概要

（キ　ハ　ダ）

キハダは, ハワイ南西海区 5°N以南からサモア海区にかけてはなお高率, 特に後者は低下期にも拘らず再び上昇して高率, 旧南洋庁沿海北部は低率, 旧南洋庁沿海南部はなお高率, ソロモン海区 0°～10°Sは更に上昇して高率, フイリピン東海北方では4月より稍高率, 南支那海は高率期に入り著しく高率を示している. 一方印度洋では, バンダ, フロレス海区は再び稍上昇してなお高率期にあり, 小スンダ, チモール沿海は稍上昇しているがなお低率, ジャワ沿海は4月より稍上昇し高率期への過渡期, アンダマン, ニコバル海区は比較的高いが此の海区としては中位以下, スマトラ西岸沿海は4月以降激減して低率, 又, セイロン海区はなお高率が続いているが中部印度洋海区は5月と同率で此の海区としては低率, 西部印度洋海区も低率期に入り全く低率であり, 概してセイロン海区以外は低率となつている. 西部太平洋亜熱帯海区は5月と同率で上昇過程初期にあるものと考えられる.

（メ　バ　チ）

メバチは, ミツドウエー海区は変化なく稍高率, ハワイ南西海区5°N以北はなお高率期, 同海区5°N以南は5月より高率, サモア海区は5月と変化なく高率期, 旧南洋庁沿海では北部の 170°E以東は最盛期で高率, 南部170°E以西は低下し始めているがなお高率であり, 南部170°E以東は1月以降漸減して来て低率気味, 又, ソロモン海区0°～10°Sの170°E以西は稍上昇しているが, 170°E以東は極めて高率で疑問視される. フイリピン東海の北方は稍低率, 南支那海は2月から低下して低率期, バンダ, フロレス海区は2月以降著しく上昇して最高率を示している.

小スンダ, チモール沿海は5月より稍低下して再び4月と同率, ジャワ沿海は上昇初期一方, アンダマン, ニコバル海区は極めて高率であるが, スマトラ西岸沿海は30年11月以降低下の一途にあり, アンダマン, ニコバル海区より遥かに低率である.

セイロン海区は5月から低下過程, 中部印度洋海区は5月より低率で3, 4月と同率, 西部印度洋海区は上昇過程にあり, 前者2海区は同率, 後者海区は此れより稍高率である.

（ビ　ン　ナ　ガ）

サモア海区は5月の高率から低率へと激減, 旧南洋庁沿海南部 170°E以東は低率であるが此の海区としては稍高率, 小スンダ, チモール沿海は5月と全く同率で最盛, ジャワ沿海は稍低下したがなお

著しく高率，スマトラ西岸沿海は低率で上昇し始め，中部印度洋海区は再び低下して居り低率気味，西部印度洋海区は高率期で低下し始めている．

（インドマグロ）

小スンダ，チモール沿海は4月既に減少していて全くの低率が続き，ジャワ沿海は6月に至つて全く低率となる．

（ク　ロ　カ　ワ）

太平洋では北上過程にあり，ハワイ南西海区5°N以北は上昇期，同海区5°N以南は5月と同率，サモア海区は変化なく低率，旧南洋庁沿海北部170°E以東も著しく上昇高率期に入り，同南部170°E以西は5月より低いが 2，3，4月と同率，170°E以東は5月の高率から激減しているが，冬季以降の漸増過程にあり，むしろ5月の高率の方が疑問視される．ソロモン海区は低下期にある．

フイリピン東海は最高率を示している．

小スンダ，チモール沿海は既に低率，ジャワ沿海も6月に至つて全く低率，アンダマン，ニコバル海区は中程度，スマトラ西岸沿海は5月同様高率，セイロン海区は3月から4月にかけ低下した後は漸増して居り，中部印度洋海区は低下し始め，西部印度洋海区はなお高率期が続いている．

西部太平洋亜熱帯海区は上昇過程にある．

（シ　ロ　カ　ワ）

ハワイ南西海区 5°N以南は始めての高率で稍高い．バンダ，フロレス海区は低率．小スンダ，チモール沿海は5月より低下したがなお高率，ジャワ沿海は中程度である．

（マ　カ　ジ　キ）

太平洋北西部の伊豆東方海区，西部太平洋亜熱帯海区，南支那海で高率を示している．

（メ　カ　ジ　キ）

西部太平洋洋亜熱帯海区は既に低率，伊豆東方海区も低率期なのだが，メカ縄船のみが操業しているので高率を示している．

3　昭和32年 1，2，3 月の漁況予報

A　西経，赤道以北の漁場

（キ　　ハ　　ダ）

キハダは5°N以北は低率期に当り，0°～20°N，140°W以東は3月頃になつて稍持ち直すかもしれないが0.5位の低率，ハワイ南東海区も1.0以下の低率，ハワイ南西海区は周年低率気味だが特に低率が続く．ハワイ南西海区5°N以南も低率期に当り低率が続くが，或は3月に至つて2.0から3.0の高率を呈するかもしれない．

（メ　　バ　　チ）

メバチは20°～30°N，160°～140°W の海域と 30～40N，180°～140°W の海域は最盛期で，3.0から4.0の極めて高率，又，ミツドウエー海区，ハワイ南西海区5°N以北も高率期だが釣獲率は 2.0附近，0°～20°N．140°W以東の海域とハワイ南東海区の5°N以北も3.0附近の高率を示すかもしれないが傾向が不明なので確かな事は解らない．

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガは1月には30°～40°N，180～140°Wの海域で1.0位の率で釣れるかもしれないが．此の月は180°E以東に去りつつあるので2月に到れば全く不漁となり，又，ビンナガの釣獲率は年々低下して居り，あまり高い率は望めまい．

（ク　ロ　カ　ワ）

クロカワは全海域にわたり低率期で，どの海域も低率が続く．

B　西経，赤道以南漁場

（キ　ハ　ダ）

此の漁場がソロモン海区と同様10°S附近に潮目があり此の以北にキハダが多く，以南にビンチヨウの多い事は既報されているが，低率期から高率期への過渡期に当り，0°～15°S，160°～140°Wの海域は1月は低率であるが3月に至るとかなり高率になるかもしれない，サモア海区は1月は中程度で1.0から2.0位であるが31年12月以降の急上昇に従つて3月或は4月には3.5の最高率に達し，タヒチ海区，トンガ海区も前記2海区より低率ながら2，3月頃には2.0～3.0の高率に達するであろう.

（メ　バ　チ）

全体的に周年低率であるが，上昇期に当り3月には北方では0.5位の率に達するであろう.

（ビ　ン　ナ　ガ）

全般的に低率期からの上昇初期に当り10°S以北はなお低率が続く．15°S以南は変化が激しいので3月頃にはかなりの高率に達するかもしれないが，10°～15°Sの傾向が未だ掴めていないので確なところは解らない．10°S以北は南から北上回游を続けている途上なので南東よりに高率を呈するであろう.

（ク　ロ　カ　ワ）

赤道附近を中心とした北方回游の途上にあるので，全般的に最高率1.0以上を示すが，西側の2海区より東側の2海区の方が高率（1.5～2.0）を示すであろう。

（マ　カ　ジ　キ）

トンガ海区のマカジキは既に高率期を過ぎたあとなので極めて低率（0.05）であろう.

C　旧南洋庁沿海漁場

（キ　ハ　ダ）

此の海域の釣獲率が5°N以北と以南で全く異り，以南の方が高率である事は周知のところであるが，170°E以東の1，2，3月は低率期に当り，以北，以南で大差はなく1.5附近，しかし，170°E以西5°N以南が最盛期に当りかなりの高率（3.0以上）を示すであろうから，キハダをねらう場合は5°N以南で操業した方が望ましい．旧南洋庁沿海北部も低率期に当り極めて低い率が続くであろう.

（メ　バ　チ）

旧南洋庁沿海南部の170°E以西の釣獲率は低下過程の途上にあつて中程度の率（0.7）を示すが，5°N以北で操業すれば1.0以上の率，同170°E以東と旧南洋庁沿海北部170°E以東は高率期に当り，前者で1.5以上，後者で2.0以上の高率を示すであろう.

（ク　ロ　カ　ワ）

全般的に低率期で殆んど赤道以南に回游し去るであろう.

D　ソロモン，ニユーカレドニヤ海区漁場

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区0°～10°S，170°E以西は低率期から高率期への過渡期に当り，上昇変化を呈し中程度の率（2.5～3.0），同170°E以東は低率期末率にかかつているので1月は低率，2，3月に至つて2.0以上に達する．ソロモン海区10°S以南はなお高率期（2.0）であるが低下過程にあり2，3月に行く程著しく低率（1.0）となろう．ニユーカレドニヤ海区は最盛期に当るが，年々低下しているので2.0位で止まつてしまうかもしれない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区0°～10°S，170E以西は周年低率，同170°E以東は低率期に当り極めて不漁，ソロモン海区10°S以南は上昇期に当り2，3月になれば中程度（2.0），ニユーカレドニヤ海区はソロモン海

区0°～10°S，170°E以東と同様低率を続けよう．

（クロカワ）

最盛期に当り，かなりの高率（ソロモン海区0°～10°S，170°E以西以外は0.5）を示すであろう．

（シロカワ，マカジキ，メカジキ）

トンガ海区のマカジキと同様，3漁種とも秋季の盛漁期から低下期に入りニユカーレドニヤ海区で僅かにその余韻がある程度であろう．

E　西太平洋漁場

（キハダ）

南支那海のキハダは低率期に当り1.0～2.0を続けよう．

（メバチ）

南支那海のメバチは最盛期末期にかかるので1，2月はなお高率（1.2～1.5）を示し，3月に至つて少し落ちる（1.0附近）であろう．

F　東印度洋漁場

（キハダ）

バンダ，フロレス海区は晩秋と初春に最高率を示し，此の間はかなり低率（1.5）となるので，その年の環境の影響で此の高率時期が前後する事によつて好漁，不漁が激しいので難しい．晩秋の率（2.0～3.0）よりは初春の率の方が高い．此処のキハダは小スンダ，チモール沿海から回游して来るものと推察されているから，その附近に気を付けておく必要がある（鮪類水揚地調査報告（昭和28年5月～29年3月67頁参照）．ジヤワ沿海の12°S以北は傾向が不明で解らないが，12°S以南と，小スンダ，チモール沿海は最高率期に当り，12°S以南で2.5～3.0，以北では4.0以上の高率を示すであろうが，回游途上である事に注意を要する．濠洲西方海区105°E以東も高率期に当り，2.5以上の高率を示すであろうが，1月或は3月に低率（1.0～1.5）を呈する可能性もある．

又，アンダマン，ニコバル海区，スマトラ西岸沿海，濠洲西方海区105°E以西も高率期に当り，3.0以上の高率を呈するであろうが，濠洲西方海区105°E以西は，或は2，3月に至つて著しく低下するかもしれない．

（メバチ）

バンダ，フロレス海区小スンダ、チモール沿海，ジヤワ沿海は低率期に当るので低率が続き，濠洲西方海区は105°E以西，以東共に低下期に当り，1月は高率（以西1.5，以東0.5）が残る可能性が大きいが2，3月は低率となるかもしれない．スマトラ西岸沿海は概して高率（1.0～2.0）であるが傾向が解らないので予測は困難，ただ1.0を少し上廻る事は考えられる．

（ビンナガ）

殆んどの海区は低率を続けるであろう．ジヤワ沿海と濠洲西方海区105°E以西は海域によつては3月に至つて多少高率になるかもしれないが，その可能性は小さい．スマトラ西岸沿海は全く不明．

（インドマグロ）

小スンダ，チモール沿海は低率の可能性大，ジヤワ沿海は2，3月に至つて最高の1.5から2.0，濠洲西方海区105°E以東は年による変動が激しく不明であるが高率になる可能性はあり，唯回游し去るのが早いので注意を要する．

（クロカワ）

小スンダ，チモール沿海，ジヤワ沿海は上昇途上でかなり高率（0.4～0.5）であるが，北東よりは低率アンダマン，ニコバル海区は低率，その他の海区は不明．

（シロカワ，マカジキ）

シロカワは小スンダ，チモール沿海と濠洲西方海区105°E以東は高率期に入つたばかりでかなり高

く0.3，マカジキはどの漁場も最盛期を過ぎたばかりで低率である．

G 中，西印度洋漁場

（キ　ハ　ダ）

セイロン海区は上昇期で既に高率期に入つているので5.0から6.0の高率で 2,3月と先に行く程高率，中部印度洋は不明であるが 5.0 は下らず， 西部印度洋海区は最盛期であるが31年より低率になる事が伺われるので10.0までにはなるまい．アラビヤ海区は不明．

（メ　バ　チ）

中部印度洋方面の 2 海区は不明，西印度洋 2 海区は低率期に当り低率であるが， アラビヤ海区は低率期でも0.7附近にとどまる傾向が強い．

（ビ　ン　ナ　ガ）

中部印度洋海区は高率期初期でかなりの高率， 西部印度洋海区は上昇期初期で未だ低率であろう．印度洋も既報の如く太平洋と同様10°S 以南に多い．

（ク　ロ　カ　ワ）

回游が未だに摑めず，傾向も不明．アラビヤ海区は上昇過程にあつて，1 月は低率（0.1）だが 3 月には中程度（0.3～0.4）になる模様．

（シロカワ，マカジキ）

西部印度洋のシロカワ，マカジキは低率期で極めて低率（0.07から0.10）が続く．

H 北部太平洋漁場

（キ　ハ　ダ）

西部太平洋亜熱帯海区のキハダは全くの低率が続こう．

（メ　バ　チ）

35°～40°N，150°～180°E の海域は高率期を過ぎたあとで極めて低率， 30°～35°N，150°～180°E の海域及び南海々区は最盛期を過ぎたあとの低下過程で中程度（0.5），伊豆諸島東方海区は最盛期に近くて比較的高率だが上記海区の中程度と同率（0.5），西部太平洋亜熱帯海区も周年あまり高率ではないので，最盛期のあとで此の海区としては中程度だが釣獲率は0.2から0.3， 南海々区は高率期前の上昇期で 3 月に至ればかなりの高率（0.4）を示すであろう．

（ビ　ン　ナ　ガ）

35°～40°N，150～180°E の海域は最盛期からの低下初期で 1 月には かなりの高率（2.0）を示すが 3 月に至るに従つて著しく低率となり， 30°～35°N，150°～180°E の海域は最盛期でかなりの高率（3.0），伊豆東方海区，西部太平洋亜熱帯海区収斂線以北及び南海々区は最盛期にかかりかなりの高率で，前者 3，後者 2 海区は 2 月には最高を示す傾向が強いが， 前者海区は年々釣獲率が低下しているので2.0を越せばよい方であろう．

（カ　ジ　キ　類）

西部太平洋亜熱帯海区収斂線以南のクロカワは低率が続き， 伊豆東方海区のメカジキは低下末期で低率，30°～35°N，150°～180E の海域は上昇期中頃で中程度（0.2～0.4）の見込みだが，或は 3 月に至つて最盛期（0.5）に達するかもしれない．35°～40°N，150°～180°E の海域は最盛期末期で 1 月はなお高率（0.5～0.7）が残るかもしれないが，2，3月には著しく低率するであろう．

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表

漁場		操業区域	調査隻数	水温(C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま きはだ	めばち
ミッドウエー		25°～ 30°N 170°～161°W	2	22.1 24.5		42	15,615	71,340	尾数 鈎獲率	9 0.01	1,093 1.53
ハワイ南西	5°N以北	6°～ 7°N 178°～177°W	1			14	4,900	24,500		152 0.62	576 2.35
	〃 以南	2°S～5°N 174°～158°W	3	27.5 28.1		84	32,398	139,852		3,466 2.48	1,615 1.15
サモア		0°～ 4°S 174°～172°W	1	27.6 28.2		24	9,120	41,040		1,390 3.39	258 0.63
南洋北部		11°～ 12°N 179°10′E附近	1	27.2 27.4		14	4,500	22,500		47 0.21	577 2.56
南洋南部	170°E以西	2°S～13°N 129°～153°E	8	27.6 30.3		139	42,095	189,708		4,052 2.14	1,342 0.71
	〃 以東	2°～ 7°N 167°～180°E	2	27.1 28.6		50	18,342	73,368		1,553 2.12	622 0.85
ソロモン		0°～3°S 159°～176°E	2	27.8 28.8		37	13,409	59,845		2,465 4.12	424 0.71
フイリッピン東海		17°～ 19°N 122°～126°E	3	29.1 30.1		40	11,350	59,620		811 1.36	91 0.15
南支那海		9°～ 15°N 110°～114°E	1	29.3 30.3		20	5,070	25,350		934 3.68	155 0.61
バンダ フロレス海区		5°～ 6°S 130°～131°E	1	28.1 28.9		13	4,552	18,208		600 3.30	526 2.89
小スンダ チモール沿海		9°～ 14°S 114°～119°E	7	27.3 28.6		111	40,110	177,030		3,202 1.81	862 0.49
ジヤワ沿海		10°～ 11°S 112°～116°E	1	27.3 28.3		15	5,360	26,800		423 1.58	273 1.02
スマトラ西岸		0°～ 3°N 88°～ 95°E	3	28.3 29.4		47	17,767	84,011		1,572 1.87	767 0.91
アンダマン ニコバル		6°～ 7°N 93°～ 94°E	1	28.3 28.9		7	2,774	11,096		310 2.79	226 2.04
セイロン		0°～ 9°N 68°～ 86°E	2	27.6 28.9		34	13,977	55,856		3,050 5.46	396 0.71
中部印度洋		2°N～11°S 70°～ 89°E	5	26.4 29.2		156	61,735	268,471		12,823 4.78	1,963 0.73
西部印度洋		3°N～13°S 50°～ 71°E	15	24.6 29.3		455	175,373	767,934		44,027 5.73	8,982 1.17
伊豆東方		29°～ 31°N 139°～145°E	2	23.0 26.6		32	4,706	40,074		3 0.01	14 0.03
西部太平洋		20°～ 29°N 135°～158°E	7	24.8 29.6		109	29,874	126,696		564 0.45	98 0.08
計			64 (68)			1,443	513,027	2,283,299		81,453 3.57	20,860 0.91

(昭和31年6月操業分)

(別表 1)

ぐ	ろ		か	じ	き			かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	くろまぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
3 0.0			38 0.05	1 0.0	168 0.24	25 0.04	2 0.0		43 0.06	143 0.20	1,525 2.14	サメ未調査隻数 0 体長測定隻数 2
1 0.0			146 0.60	3 0.01	1 0.0	5 0.02	14 0.06	22 0.09	34 0.14		954 3.89	1 1
243 0.17			246 0.18	208 0.15	23 0.02	75 0.05	3 0.0	105 0.08	85 0.06	78 0.06	6,147 4.40	2 2
12 0.03			102 0.25	9 0.02	2 0.0	10 0.02	1 0.0				1,784 4.35	1 0
			151 0.67		1 0.0				2 0.01		778 3.46	1 1
7 0.0	8 0.0		618 0.33	18 0.01	12 0.01	29 0.02	145 0.08	33 0.02	91 0.05	450 0.24	6,805 3.59	2 4
124 0.17			307 0.42	2 0.0	1 0.0	10 0.01	4 0.01	66 0.09	98 0.13	152 0.21	2,939 4.01	0 1
62 0.10			137 0.23	9 0.02		3 0.01	3 0.01			8 0.01	3,111 5.20	1 1
11 0.02	28 0.05		279 0.47	1 0.0	20 0.03	17 0,03	133 0.22		1.52 0.25	56 0,09	1,599 2.68	0 3
			22 0.09	3 0.01	43 0.17	32 0.13	5 0.02				1.194 4.71	1 1
			33 0.18	33 0.18		11 0.06	16 0.09		1 0.01		1,220 6.70	1 1
10,034 5.67		10 0.01	223 0.13	634 0.36	14 0.01	66 0.04	6 0.0		3 0.0		15,054 8.50	7 6
1,252 4.67			15 0.06	71 0.26	2 0.01	11 0.04					2,047 7.64	1 1
396 0.47			694 0.83	127 0.15	75 0.09	26 0.03	17 0.02	23 0.03	12 0.01		3,709 4.41	3 1
			69 0.62	11 0.10	8 0.07	10 0.09	1 0.01				635 5.72	1 1
212 0.38			238 0.43	22 0.04	120 0.21	24 0.04	16 0.03		52 0.09	202 0.36	4,332 7.76	1 0
1,725 0.64			904 0.34	147 0.05	395 0.15	197 0.07	79 0.03	131 0.05	214 0.08	364 0.14	18,942 7.06	4 3
9,570 1.25			2,668 0.35	631 0.08	663 0.09	533 0.07	220 0.03	486 0.07	576 0.08	992 0.13	69,348 9.03	9 5
			7 0.02		58 0.14	185 0.46			14 0.03	515 1.29	796 1.99	0 0
16 0.01			518 0.41	1 0.0	420 0.33	93 0.07	39 0.03	17 0.01	338 0.27	796 0.63	2,900 2.29	1 3
23,668 1.04	36 0.0	10 0.0	7,415 0.32	1,931 0.08	2,026 0.09	1,362 0.06	704 0.03	883 0.04	1,715 0.08	3,756 0.16	145,819 6.39	34(37) 36(38)

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和31年6月操業分）

（別表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		50cm以下	51~60	61~70	71~80	81~90	91~100	101~110	111~120	121~130	131~140	141~150	151cm以上	計	漁獲尾数
きはだ	1	ミッドウェー	26°~ 30°N 165°~161°W	17	尾数 %								1 25.0			2 50.0	1 25.0	4 100	4
	1	ハワイ南西 5°N以北	6°~ 7°N 178°~177°W	14								1 1.6	5 7.9	11 17.5	33 52.4	11 17.5	2 3.2	63 100	152
	2	ハワイ南西 5°N以南	2°S~4°N 174°~158°W	45								2 0.5	6 1.4	112 26.4	184 43.3	98 23.1	23 5.4	425 100	2,146
	1	南洋北部	11°~ 12°N 179°10′E	14								1 7.7	4 30.8	8 61.5				13 100	47
	3	南洋南部 170°E以西	1°~ 13°N 129°~142°E	53			1 0.1	2 0.3	1 0.1	31 3.9	234 29.7	97 12.3	127 16.1	216 27.4	73 9.3	6 0.8	1 0.1	789 100	1,696
	1	〃 〃 以東	4°~ 7°N 178°~180°E	23										42 34.1	61 49.6	18 14.6	2 1.6	123 100	486
	3	フイリピン東海	17°~ 19°N 122°~126°E	40			2 0.3				29 4.7	138 22.5	19 3.1	195 31.9	178 29.1	45 7.4	6 1.0	612 100	811
	1	南支那海	9°~ 15°N 110°~114°E	20					4 3.2	7 5.6			26 20.6	57 45.2	24 19.0	2 1.6	6 4.8	126 100	934
	1	バンダフロレス	5°~ 6°S 130°~131°E	13				2 0.3		2 0.3	3 0.5	76 12.9	78 13.3	318 54.1	92 15.6	17 2.9		588 100	600
	4	小スンダ チモール	10°~ 14°S 115°~119°E	57							2 0.5	17 4.0	27 6.3	169 39.4	162 37.8	48 11.2	4 0.9	429 100	1,495
	1	ジャワ	10°~ 11°S 112°~116°E	15										9 24.3	14 37.8	14 37.8		37 100	423
	1	スマトラ西岸	0°~ 2°N 92°~ 93°E	14							1 1.2	2 2.4	4 4.9	35 42.7	15 18.3	20 24.4	5 6.1	82 100	421
	1	中部印度洋	2°N~5°S 72°~ 77°E	31							1 0.3	11 3.6	3 1.0	116 37.9	106 34.6	57 18.6	12 4.0	306 100	2,244
	4	西部印度洋	2°N~13°S 50°~ 70°E	131		5 0.1		6 0.2	19 0.5	18 0.5	41 1.1	43 1.2	141 3.9	1,087 30.3	1,125 31.4	961 26.8	137 3.8	3,583 100	13,958

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		80cm以下	81～90	91～100	101～110	111～120	121～130	131～140	141～150	151～160	161～170	171～180	181cm以上	計	漁獲尾数
	3	西部太平洋	20°～25°N 135°～145°E	47							12 3.6	83 24.9	129 38.6	48 14.4	59 17.7	3 0.9		334 100	359
めばち	1	ミッドウエー	26°～30°N 165°～161°W	17	尾数 %		8 4.7	5 2.9	11 6.4	1 0.6	1 0.6	7 4.1	43 25.1	27 15.8	31 18.1	27 15.8	10 5.8	171 100	405
	1	ハワイ南西 5°N以北	6°～7°N 178°～177°W	14					25 11.6	14 6.5	35 16.3	40 18.6	36 16.7	24 11.2	31 14.4	9 4.2	1 0.5	215 100	576
	2	〃 〃 以南	2°S～4°N 174°～158°W	45				6 4.1	22 15.0	14 9.5	20 13.6	32 21.8	23 15.6	18 12.2	6 4.1	5 3.4	1 0.7	147 100	1,101
	1	南洋北部	11°～12°N 179°10′E	14			5 1.7	14 4.9	40 13.9	14 4.9	37 12.8	48 16.7	35 12.1	40 13.9	36 12.5	13 4.5	6 2.1	288 100	577
	4	南洋南部 170°E以西	1°～13°N 129°～147°E	68		32 7.3	5 1.2	24 5.6	29 6.8	71 16.6	76 17.7	72 16.8	82 19.1	23 5.4	10 2.3	5 1.2		429 100	663
	1	〃 〃 以東	4°～7°N 178°～180°E	23				2 1.7	9 7.8	7 6.1	26 22.6	26 22.6	17 14.8	18 15.7	8 7.0	2 1.7		115 100	420
	1	ソロモン	0°～2°S 159°～165°E	20		6 4.7	2 1.6	7 5.4	10 7.8	8 6.2	27 20.9	38 29.5	21 16.3	6 4.7	4 3.1			129 100	129
	3	フイリピン東海	17°～19°N 122°～126°E	40		1 1.1	8 8.8	16 17.6		18 19.8	11 12.1	15 16.5	12 13.2	7 7.7	3 3.3			91 100	91
	1	南支那海	9°～15°N 110°～114°E	20		8 5.2	13 8.5	12 7.8	28 18.3	16 10.5	21 13.7	9 5.9	24 15.7	17 11.1	4 2.6	1 0.7		153 100	155
	1	バンダフロレス	5°～6°S 130°～131°E	13		2 1.2	4 2.4	4 2.4	3 1.8	19 11.5	25 15.2	63 38.2	29 17.6	12 7.3	4 2.4			165 100	526
	4	小スンダ チモール	10°～14°S 115°～119°E	57			14 4.4	3 0.9	55 17.3	68 21.4	67 21.1	60 18.9	42 13.2	6 1.9	2 0.6	1 0.3		318 100	411
	1	ジヤワ	10°～11°S 112°～116°E	15					6 12.8	11 23.4	9 19.1	10 21.3	7 14.9	2 4.3	2 4.3			47 100	273
	1	スマトラ西岸	0°～2°N 92°～93°E	14			1 2.2	5 10.9	5 10.9	6 13.0	9 19.6	7 15.2	11 23.9	2 4.3				46 100	167
	1	アンダマン ニコバル	6°～7°N 93°～94°E	7			1 1.0		7 6.9	14 13.9	14 13.9	19 18.8	18 17.8	22 21.8	6 5.9			101 100	226

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		80cm以下	81～90	91～100	101～110	111～120	121～130	131～140	141～150	151～160	161～170	171～180	181cm以上	計	漁獲尾数
	1	中部印度洋	2°N～5°S 72°～77°E	31	尾数			3	4	7	8	6	7	9	2			46	270
					%			6.5	8.7	15.2	17.4	13.0	15.2	19.6	4.3			100	
	4	西部印度洋	2°N～13°S 50°～70°E	131	尾数	4	4	15	70	146	166	149	168	127	80	20	3	952	1,710
					%	0.4	0.4	1.6	7.4	15.3	17.4	15.7	17.6	13.3	8.4	2.1	0.3	100	
	3	西部太平洋	20°～25°N 135°～145°E	47	尾数						1	7	3	2				13	19
					%						7.7	53.8	23.1	15.4				100	

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		40cm以下	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100	101～110	111～120	121cm以上	計	漁獲尾数
びんちょう	1	ハワイ南西 5°N以南	1°～3°N 174°～170°W	18	尾数						2	34	4			40	99
					%						5.0	85.0	10.0			100	
	2	フイリピン東海	17°～19°N 124°～126°E	24	尾数							2	8	1		11	11
					%							18.2	72.7	9.1		100	
	4	小スンダ チモール	10°～14°S 115°～119°E	57	尾数					2	12	737	172	28		951	5,592
					%					0.2	1.3	77.5	18.1	2.9		100	
	1	ジャワ	10°～11°S 112°～116°E	15	尾数						2	35	18	2		57	1,252
					%						3.5	61.4	31.6	3.5		100	
	1	西部印度洋	2°N～4°S 54°～70°E	34	尾数				1	1	4	525	577	56		1,164	1,167
					%				0.1	0.1	0.3	45.1	49.6	4.8		100	
	3	西部太平洋	20°～25°N 135°～145°E	47	尾数							1	3	3		7	12
					%							14.3	42.9	42.9		100	

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		140cm以下	141～150	151～160	161～170	171～180	181～190	191～200	201～210	211～220	221～230	231～240	241cm以上	計	漁獲尾数
くろまぐろ	1	南洋南部 170°E以西	7°～13°N 135°～138°E	17	尾数									2				2	2
					%									100				100	
	3	フイリピン東海	17°～19°N 122°～126°E	40	尾数							10	7	7	1	1		26	28
					%							38.5	26.9	26.9	3.8	3.8		100	

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		140cm以下	141～150	151～160	161～170	171～180	181～190	191～200	201～216	211～220	221～230	231～260	261cm以上	計	漁獲尾数
	2	ミッドウエー	25°～30°N 170°～161°W	42	尾数							1	4	5	5	5		20	38
					%							5.0	20.0	25.0	25.0	25.0		100	

	1	ハワイ南西 5°N以北	6°～ 7°N 178°～ 177W	14		1 2.0	5 10.2	4 8.2	7 14.3	8 16.3	4 8.2	5 10.2	3 6.1	4 8.2	6 12.2	2 4.1		49 100	146
	2	〃 〃 以南	2°S～ 4°N 174°～158°W	45		1 2.6	2 5.3	3 7.9	12 31.6	5 13.2	1 2.6	5 13.2	4 10.5		1 2.6	3 7.8	1 2.6	38 100	122
く	1	南洋北部	11°～ 12°N 179°10′E	14		2 3.6	5 9.1	7 12.7	30 54.5	1 1.8	5 9.1	1 1.8	1 1.8	1 1.8		2 3.6		55 100	151
	3	南洋南部 170°E以西	1°～ 13°N 135°～147°E	55		18 10.5	38 22.2	44 25.7	28 16.4	4 2.3	14 8.2	10 5.8	5 2.9	3 1.8	4 2.3	2 1.2	1 0.6	171 100	246
	1	〃 〃 以東	4°～ 7°N 178°～180°E	23		5 7.5	5 7.5	7 10.6	18 27.3	9 13.6	7 10.6	6 9.1	4 6.1	1 1.5	1 1.5	2 3.0	1 1.5	66 100	220
	1	ソロモン	0°～ 2°S 159°～165°E	20		12 17.2	9 12.9	14 20.0	10 14.3	3 4.3	6 8.6	8 11.4	4 5.7	1 1.4		2 2.8	1 1.4	70 100	78
ろ	1	フイリピン東海	17°～ 18°N 122°～125°E	16		11 13.8	23 28.8	15 18.8	18 22.5	1 1.3	1 1.3	4 5.0	3 3.8	1 1.3	3 3.8			80 100	80
	1	南支那海	9°～ 15°S 110°～114°E	20					6 27.3	1 4.5	7 31.8	6 27.3			2 9.1			22 100	22
	1	バンダフロレス	5°～ 6°S 130°～131°E	13		3 9.1	2 6.1	4 12.1	15 45.5		2 6.1	2 6.1	1 3.0	1 3.0	1 3.0	2 6.1		33 100	33
か	6	小スンダ チモール	10°～ 14°S 115°～119°E	92		4 3.5	1 0.9	11 9.6	33 28.7	7 6.1	14 12.2	7 6.1	6 5.2	2 1.7	6 5.2	21 18.2	3 2.6	115 100	198
	1	ジヤワ	10°～ 11°S 112°～116°E	15					2 10.0									2 100	15
	1	スマトラ西岸	0°～ 2°N 92°～ 93°E	14				1 3.3	7 23.3	10 33.3	3 10.0	2 6.7	5 16.7	1 3.3	1 3.3			30 100	79
	1	アンダマン ニコバル	6°～ 7°N 93°～ 94°E	7					7 15.2	10 21.7	17 37.6	9 19.6		2 4.3	1 2.2			46 100	69
わ	3	中部印度洋	2°N～5°S 70°～ 89°E	95		1 0.4	11 1.8	45 17.0	210 29.7	35 23.8	39 7.4	19 3.5	7 4.5	10 4.1	18 2.9	15 1.8	6 1.2	488 100	1,045
	5	西部印度洋	2°N～13°S 50°～ 70°E	159		3 0.8	1 0.3	19 4.8	91 22.8	103 25.8	66 16.5	43 10.8	21 5.3	13 3.3	12 3.0	25 6.3	3 0.8	400 100	1,004
	2	西部太平洋	20°～ 25°N 142°～145°E	34		10 4.9	43 21.1	62 30.4	33 16.2	3 1.5	8 3.9	12 5.9	8 3.9	12 5.9	8 3.9	3 1.5	2 1.0	204 100	213

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		140 cm 以下	141 ~150	151 ~160	161 ~170	171 ~180	181 ~190	191 ~200	201 ~216	211 ~220	221 ~230	231 ~260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
しろかわ	1	ミッドウエー	25°～ 30°N 170°～162°W	25	尾数 %						1 100.							1 100	1
	2	ハワイ南西 5°N以南	2°S～4°N 174°～158°W	45					1 50.0			1 50.0						2 100	103
	2	南洋南部 170°E以西	1°～ 8°N 140°～147°E	38		1 16.7			1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7		1 16.7				6 100	7
	1	南支那海	9°～ 15°N 110°～114°E	20			3 100											3 100	3
	1	バンダフロレス	5°～ 6°S 130°～131°E	13		5 15.2	13 39.4	4 12.1	3 9.1	3 9.1	1 3.0	1 3.0	1 3.0		1 3.0	1 3.0		33 100	33
	6	小スンダ チモール	10°～ 14°S 115°～119°E	92		95 25.6	108 29.1	55 14.8	41 11.1	25 6.7	9 2.4	12 3.2	10 2.7	13 3.5	1 0.3	2 0.6		371 100	600
	1	ジャワ	10°～ 11°S 112°～116°E	15		4 36.4	1 9.1	3 27.3	1 9.1			2 18.2						11 100	71
	1	スマトラ西岸	0°～ 2°N 92°～ 93°E	14		1 11.1	2 22.2				3 33.3	3 33.3						9 100	22
	1	アンダマン ニコバル	6°～ 7°N 93°～ 94°E	7		1 16.7			2 33.3		2 33.3				1 16.7			6 100	11
	3	中部印度洋	2°N～5°S 70°～ 89°E	95		3 4.2	4 5.6	5 6.9	5 6.9	5 6.9	10 13.9	9 12.5	7 9.7	11 15.3	4 5.6	7 9.8	2 2.8	72 100	109
	5	西部印度洋	2°N～13°S 50°～ 70°E	159			2 2.0	6 6.1	6 6.1	8 8.1	11 11.1	12 12.1	12 12.1	13 13.1	10 10.1	17 17.2	2 2.0	99 100	227
	1	西部太平洋	20°～ 23°N 142°～145°E	17												1 100.		1 100	1

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		100 cm 以下	101 ~110	111 ~120	121 ~130	131 ~140	141 ~150	151 ~160	161 ~170	171 ~180	181 ~190	191 ~200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
ま	2	ミッドウエー	25°～ 30°N 170°～161°W	42	尾数 %					11 23.4	6 12.8	6 12.8	4 8.5	10 21.3	9 19.1	1 2.1		47 100	168
	1	ハワイ南西 5°以北	6°～ 7°N 178°～177°W	14													1 100.	1 100	1

かじき	1	フィリピン東海	17°～ 18°N 122°～125°E	16					1 6.7		1 6.7	7 46.7	1 6.7	2 1.33	2 13.3		1 6.7	15/100	15
	1	南支那海	9°～ 15°N 110°～114°E	20								1 2.5	8 20.0	12 30.0	16 40.0	2 5.0	1 2.5	40/100	43
	2	小スンダ チモール	10°～ 14°S 115°～119°E	27					1 14.3			3 42.9		3 42.9				7/100	7
	1	ジヤワ	10°～ 11°S 112°～116°E	15												1 100.		1/100	2
	1	スマトラ西岸	0°～ 2°N 92°～ 93°E	14										2 16.7	9 75.0	1 8.3		12/100	31
	2	中部印度洋	1°N～5°S 70°～ 89°E	64					2 1.5	17 13.1	14 10.8	12 9.2	11 8.5	37 28.5	33 25.4	4 3.1		130/100	133
	5	西部印度洋	2°N～13°S 50°～ 70°E	159							1 1.3	9 11.4	14 17.7	26 32.9	21 26.6	8 10.1		79/100	234
	3	西部太平洋	20°～ 25°N 135°～145°E	47			6 4.0	20 13.2	14 9.4	9 6.0	29 19.2	45 29.8	20 13.2	4 2.6		4 2.6		151/100	203
めかじき	2	ミッドウエー	25°～ 30°N 170°～160°W	42				1 10.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0			1 10.0	3 30.0	2 20.0		10/100	25
	1	フィリピン東海	17°～ 18°N 122°～125°E	16		1 33.3		1 33.3		1 33.3								3/100	3
	1	南支那海	9°～ 15°N 110°～114°E	20						18 56.3	9 28.1	3 9.4	1 3.1				1 3.1	32/100	32
	1	バンダフロレス	5°～ 6°S 130°～131°E	13		1 9.1	1 9.1	2 18.2		3 27.3	1 9.1	2 18.2			1 9.1			11/100	11
	4	小スンダ チモール	10°～ 14°S 115°～119°E	64		2 10.5	1 5.3	5 26.3	1 5.3	4 21.1		3 15.8	1 5.3		1 5.3	1 5.3		19/100	26
	2	中部印度洋	1°N～5°S 70°～ 89°E	62				3 15.8		7 36.8	4 21.1	3 15.8	1 5.3		1 5.3			19/100	143
	2	西部印度洋	2°N～5°S 51°～ 70°E	62		1 1.3	3 3.8	19 24.1	10 12.7	15 19.0	5 6.3	4 5.1	7 8.9	6 7.6	7 8.9		2 2.5	79/100	84
	3	西部太平洋	20°～ 25°N 135°～145°E	47				4 25.0	1 6.3	2 12.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	2 12.5	2 12.5	16/100	17

会員リポート

中部印度洋6．7月の海況，漁況の現状

会員 神 原 勇 （第一 さつま丸船長）

1) チヤゴス東方海区（5°00′S，73°36′E）は，水温27.6°～28.0°Cと稍低めで27.8が適水温，キハダが主でメバチが此れに次ぎ，魚体は13～14〆のものと5～6〆以下の二群に分れ中間の大いさのものは少い，海流はENE～SSE～S～SW～WSWと多様で右施している様に思われるが流速は大きくなく0.5～1.0kt程度，SE流の1.0ktに大型魚の魚群がみられた他は閑散，ひらがしらを筆頭に鮫は比較的多，風はSSE～SE系の風力3～5で風悪く，うねりも比較的高く半晴乃至曇の日が多い．

2) マルダイブ群島赤道水道西方海区（0°18′S，72°42′E）は，マルダイブ群島南部のスバデイヴア環礁とアデイウ環礁の中間の赤道水道の西方で28.9°～29.4°Cの稍高めの水温であるが，同経度の赤道北方では28.3°～28.7°Cの低水温で，29.2°Cが適水温，キハダが主でクロカワが此れに次ぎ，ビンチヨウも29.1Cの水温に稍みられたが足速く捕捉出来ず，魚体はキハダガ10～12〆ものの中間のものが大部分を占あ，クロカワも大きいものは殆んどなく13～17〆程度，鮫は少くアデイウ環礁5′W辺にもみられず．

海流はE～ESE～SE～SSEとSE象限に占められ，流速は0.5～0.8kt，風向はSW～WSW～W，稀にNW，風力2～4，うねりもかなりあり，コロンボ放送によると，1°Sの緯度（時として2°S）に平行した不連続線が東西にのびて来る模様，当海区はシヤチ多く豊凶の差が激しい．猶ゴンドウ鯨一頭捕獲．

3) マルダイブ群島赤道水道250浬東方（0°00′S，77°00′E）は水温が27.8～28.2で28.1～28.2の高めの水温が良，魚体はキハダが主で7～9〆のものが大部分を占め連日平均1,300～1,400〆程度，鮫も比較的多い．海流はE～ESE流とSSW～S流がみられ，前者は赤道以南，後者は赤道以北にみられる．流速は0.5～0.9kt，E流は比較的強くS流は0.5kt以下，赤道上に東西流の潮境を形成，風はW～WSW～SWで稀にS，風力は2～3，かなりうねりあり，天候は半晴若しくは曇でスコール多し．28.2～28.5°Cの水温に3，4回，はねむれの鰹群をみる．

4) マルダイブ群島一度半水道250東方(1°42′N76°42′E)は中心漁場（1°36′N．76°30′E）より南側では28.1°～28.2°Cの水温，北側は27.7°～27.8°Cの水温が最も多く，キハダが主で10～11〆のものが主体となつている．魚群体は中心漁場よりN～N/Eにゆつくり移動している模様，海流はWNWで0.8～0.9～1.1ktで一定，漁模様は上記した四海区のうちで此の海区が最もよく1,400～1,500〆/日程度，風向はS～SW，風力2～3，比較的凪であるがうねりはかなりある．

◆会員の報告文を掲載する欄を設けました．用紙は水試委託の調査用紙でなくとも結構ですから調査操業した結果，操業後の感想，その他御気付の点等についてなんでも結構ですから，御投稿をお願いします．

宛 先　神奈川県三浦市三崎町神奈川水試内 鮪漁業研究会編集部

（入港時に調査にまわつている試験場職員にお渡し下さつても結構です）

謹　賀　新　年

まぐろ延縄には漁材科学の生んだ

比重調整と樹脂加工を併用した延縄

アサヒテツクスロープを御使用下さい

特　徴　① コールタール染不要
② 着色自由　③ 比重の適正
④ あらゆるロープの中で耐久耐摩耗力は一番すぐれております。

アサヒテツクスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978 番
出張所　神奈川県三浦市三崎町仲崎一四三番地　電話三浦221番

※ 説明資料は当鮪漁業研究会に御申込下さい ※

新工場落成量産開始

太洋無線が世界に誇る

船舶用・航空機用・陸上用・各種

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都渋谷区衆楽町48番地
電話渋谷（46）代表 5283—9 番

謹賀新年

社団法人 漁船協会
理事長 木村嘉次
東京都千代田区丸ノ内（丸ビル603号）
電話和田倉(20)4588番

ガムレン・ケミカル・カンパニー
日本総代理店
株式会社 山水商店
東京都中央区日本橋通り2の6
電話千代田(27)6380—2・6026

三崎無線通信士協会
会長 塩瀬厚
神奈川県三浦市三崎町花暮（生協ホール内）
電話三浦875番

土地建物の御相談は……
三崎土地建物有限会社
社長 塩瀬厚
神奈川県三浦市三崎町日の出136
電話三浦366番

船舶食糧品
株式会社 星野商店
神奈川県三崎港 電話235

富士商工株式会社三崎営業所
神奈川県三浦市三崎町
電話三浦346

板倉カメラ店
板倉正二
神奈川県三浦市三崎町花暮
電話三浦106の乙

水産用ゴム製品
出港用品一式
ヨコハマ屋
三浦市三崎港 電話三浦824

品質保証
ゴムの
緑屋
三浦市三崎町海南公園前 電話三浦368

活字製造販売
株式会社 平工商店
本社 横浜市南区吉野町2の4
電話(8)7760・9170番
営業所 東京都中央区入船町3の1
電話(55)2830番

印刷・製本用機械及材料、写真製版
有限会社 平工商店機械材料部
横浜市南区吉野町2の4
電話港(8)9581番

On the morphology of the tunas (Part 2)
2. On the albacore.

Translated

マグロの外部形態の比較について　（承前其の二）

See Reprint File

TETSU, K.

東京大学農学部　檜山研究室　鉄　　健　　司

2.　ビンナガについて

ビンナガの漁場に関しては，本誌34号において南海区水産研究所の須田氏が詳細に報告されているので，ここでは簡単にふれておく．本邦の漁船が操業するビンナガ漁場といえばすぐに北太平洋流流域，濠洲をはさんだ印度洋および南太平洋の南赤道流流域のいずれも東西に帯状にのびた漁場が思いだされる．このうち北太平洋流流域のビンナガは春より初夏にかけては北上し，秋より冬の期間には南下し，北上期は竿釣りによつて，南下期は延縄によつて漁獲されている．南半球のビンナガはすべて延縄によるものである．ビンナガの漁獲状況を手許にある昭和28年度の漁獲統計資料から眺めてみよう．

まず漁業別漁獲量は第1表のようである．これによるとカツオ一本釣りによるビンナガの漁獲量は880万〆でビンナガ総漁獲量の63%を占め，次いで延縄による漁獲は500万〆36%で両漁業によつて99%以上を占め，他の旋網や定置網による漁獲は著るしく少いことがわかる．さらに見方をかえてビンナガが主に漁獲されているカツオ1本釣り及び延縄の魚種別漁獲量を第2表にてみてみよう，カツオ1本釣りにおけるビンナガの漁獲量はカツオの57%についで33%を占め，キハダ，メバチ・クロマグロの漁獲量と比較して非常に多く，カツオ一本釣り漁業においてビンナガは重要な位置を占めている．他方延縄漁業ではその漁獲の15%がビンナガであつて，キハダ・メバチの夫々20%についで多く漁獲されている．特にマグロ類の中でビンナガが特徴を持つのはその利用面においてであろう．漁獲の多いメバチやキハダが主に国内消費にあてられるのに対し，ビンナガはその漁獲の60%が冷凍として，40

第1表　　　ビンナガ漁業別漁獲量（昭和28年）

計	遠洋カツオ一本釣	遠洋マグロ延縄	近海カツオ一本釣	台網落網	その他の旋網	その他の釣	近海マグロ延縄	突棒	その他の漁業	母船式マグロ漁業
千〆 13,857	8,601	4,901	178	23	10	2	62	0	3	77
% 100	62	35	1	0	0	0	0	0	0	1

（農林経済局統計調査部）

第2表　　　漁業別魚種別漁獲量（昭和28年）

漁業＼魚種	計	カツオ	ソーダカツオ	*クロマグロ	ビンナガ	メバチ	キハダ	マカジキ	メカジキ	*クロカワ	ヨシキリザメ	ネズミザメ	アブラザメ	他のサメ類	サワラ	シイラ	その他
遠洋カツオ	千〆 26,185	15,008	46	620	8,601	628	1,158	1	3	1	10	0	—	12	7	31	47
一本釣	% 100	57	0	2	33	2	4	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0
遠洋マグロ	千〆 32,980	65	1	1,352	4,901	6,590	6,490	746	1,882	3,839	4,382	1,043	1	1,136	7	28	503
延縄	% 100	0	0	4	15	20	20	2	6	12	13	3	0	3	0	0	2

＊ クロマグロ中に印度マグロを含む。
＊ クロカワの中にシロカワを含む。

%が罐詰の形で輸出され，「シイー・チキン」とよばれて賞味されている．

したがつて主たる輸出先である米国のビンナガに関する調査報告は比較的多い．ここでは種族査定のための形態調査に関係ある H. C. Godsil (1948) の報告についてふれるにとどめ，他の報告については後日機会をみてまとめてみたいと思つている．Godsilは1941年及び1942年にアメリカ太平洋岸のビンナガ夫々42尾，62尾の形態測定を行い，同時に日本の標本として9尾，ハワイの標本として3尾の測定を行つて

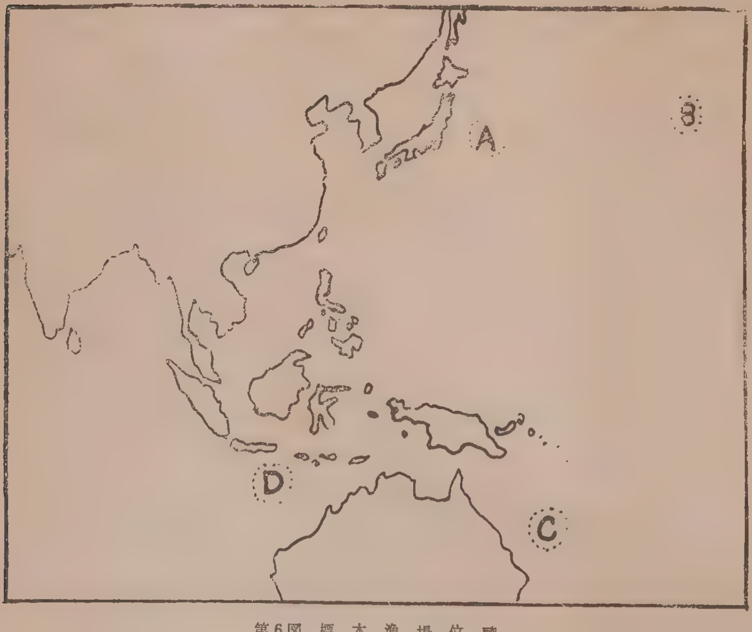
1) 日本とアメリカのビンナガは全く別の交流のみとめられぬ系統のものであろう．
2) ハワイのビンナガはアメリカ側のビンナガよりも日本側のビンナガに形態上似ている．
3) 日本のビンナガはアメリカのビンナガにくらべて頭部が小さく，尾柄部短かく，軀幹部が長い．

との結果を報告しているが，更に検討を要する点もあるように思われる．

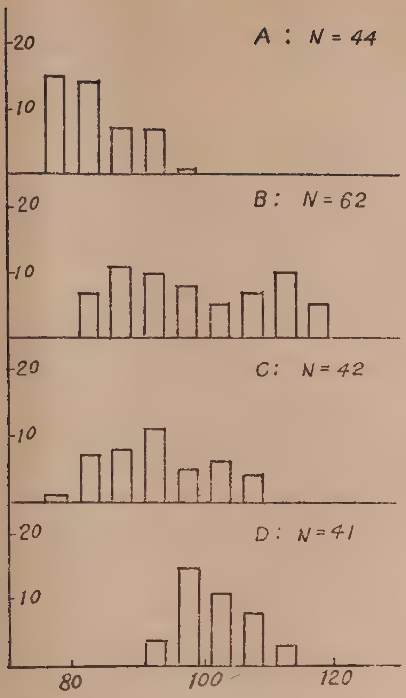
他方本誌にもしばしば報告されているように，近年鮪類の標識放流の実施に伴ないアメリカ側で放流したビンナガが再三わが国の漁船によつて本邦沖合で再捕されている．このような事実にもとづき漁況としては一応北太平洋中心部において東西にのびる漁場はきれているが，アメリカ側と日本側のビンナガは同系統のものか，そうでないとしても可成り交流のある資源であろうと考えられている．このように各水域において漁獲されるビンナガ資源の相互関係を考える時，次のような諸関係について究明がなされねばならないであろう．

1) 北太平洋日本沖合の竿ビンと縄ビンの関係
2) 北太平洋のアメリカ側，日本側のビンナガの関係
3) 北太平洋のビンナガと南太平洋のビンナガとの関係
4) 上記太平洋のビンナガと印度洋のビンナガとの関係
5) 印度洋諸水域におけるビンナガの関係

上記の中，1)，3)，4)について1955年度のビンナガ形態調査の結果から検討をしてみよう．この調査はビンナガの形態調査として初年度のものであり，実に検討を要する点も多くある事を了承されたい．調査は初夏より秋にかけて東京築地および焼津においておこなつた．焼津における調査は竿ビンの測定を目的としたもので，延縄によるビンナガはすべて築地において行つた．夜半に水揚げされ，夜明と共にセリにふされ構外に運搬されるまでの数時間を利用して，構内にずらりとならべられたビンナガを，デバイダーおよびキャリパーを用いて測定した．測定形質は先に述べた18形質で，各漁場の標本については出来る限り体長範囲を広くとるように努めた．供試標本は漁場によつてA，B，C，Dとわけ，各標本の得られた漁場を第6図に示した．標本Aは北太平洋の竿ビン44尾で6月末焼津において測定したもので体長は他の標本と比較して小さく，平均85 cm位である．標本Bは標本Aより沖合の縄ビン62尾で，8月より10月にかけて漁獲されたもので平均体長は100cmに近い．標本Cは濠洲東方南緯13～28度水域で7月より9月にかけて得られた42尾で平均93cm位の体長をもつている．標本Dは印度洋東部ジャヴァ・小スンダ列島南側水域で8月に漁獲された平均体長100cm余りの41尾である．各標本の体長組成は第7図に示す．これによればB，Cは体長範囲がA，Dより広く，Aは小さい方にDは大きい方にかたよつている．供試標本の体長はすべて75cmより大きく，前号の



第6図 標本漁場位置



第7図 標本体長組成　　(体長 : cm)

相対成長の項で述べたように一般に標準長を x，部分長を y であらわすと

$$y=a+bx\cdots\cdots\cdots(1)$$

なる一次式をもつて相対成長をあらわしうる．ただし胸鰭長に関しては(Ⅱ)の劣成長を示すので体長を対数に変換して同様に(1)式であらわしうる．Godsil は回帰線のあてはめに関して(1)式の他に

$$y=a+bx+cx^2$$

$$y=a+bx+cx^2+dx^3$$

$$y=ax^b$$

$$y=ae^{bx}$$

$$y=a+bx+\frac{x}{c}$$

なる式に先の資料のデータをあてはめて計算した結果

$$y=a+bx+\frac{x}{c}\cdots\cdots\cdots\cdots(2)$$

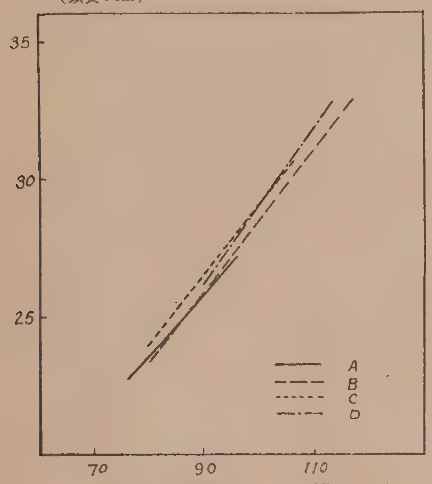
なる式がもつともよくその相対成長をあらわしうるとして爾後の解析をすすめている．ここでは如何なる回帰式を用いるかについての吟味は省略して話をすすめる．

まず4標本A，B，C，Dは各形質毎に同じ成長割合で成長していると云えるか．同じ割合で成長するとしてもある体長における頭長なり各形質の大きさは同じであると云えるかといつたことについて一元配置の共分散分析を行つて検定し，大きさがちがうとすればそれはどの程度であるかを推定してみた．その結果は大凡次のようであつた．

i） 北太平洋の竿ビン（標本A）と縄ビン（標本B）とでは，漁法のちがいにより標本の体長組成は第7図にみるように著るしく異なるが，相対成長については多くの形質について差はみとめられず，外部形態はただ次にのべる二，三の形質をのぞいては非常に類似したものであつた．差のあるものとして竿ビンは体高が高く，吻・臀鰭起部間距離が短いという結果が得られた．この二形質は漁場をとわず竿ビンのみが異つた様子を示しており，標本の体長組成の差がこの種の解析において形態的差としてあらわれてきたものであるのかどうか今後検討せねばならぬ問題である．この他尾鰭高においても標本AとBとではことなるが，その差は南半球のビンナガとの差に比較すれば問題にならない程度である．こうした北太平洋の竿ビンと縄ビンとでは漁期漁法こそことなれ漁場が同一であり，亜熱帯収斂線の移動にともなつて南北に移動し，南下期に縄ビン，北上期に竿ビンとしてとられるので，これらが同一の系統群に由来しその形態は類似するであろうことは当然と云わねばならない．ただわれわれがこの種の資料を解析する際一般に体長組成のちがいと云う点に非常な考慮をはらわねばならない．体長組成の影響が解析の上に大きくきくようでは困るのであつて，果してどの程度であるかについて，以上の結果は目安をあたえてくれたように考えられる．もちろん1年のデータから結論をひきだすことは危険であり，上記の結果が常に云えるかどうかを検討すれば，その結果が形態調査を行う時の形質の選択の一つの規準を与えてくれるように思われる．これらの点については今後更に検討していくつもりである．

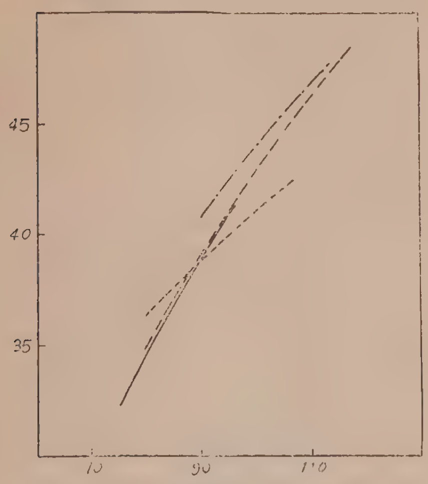
ii） 次に北太平洋のビンナガ（標本AおよびB）と南太平洋のビンナガ（標本C）の比較をしてみよう．北半球のビンナガは，竿ビン，縄ビンを問わず，南太平洋のビンナガにくらべ頭長，吻・胸鰭起部間距離，吻・第1背鰭起部間距離，吻・腹鰭起部間距離等頭部あるいは体の前部をあらわす形質すべてについて著るしく小さい．ここで著しく小さいと云う言葉が一寸気になるのであるが，これはあるビンナガを持つてきて，これらの形質をみればすぐこれは南太平洋のものであると云いうる様な大きな差をいみするのでなく，多数の個体を測定し統計的処理を施して始めてわかる程度の差であることを了承された

い．このように日本沖合のビンナガは南半球のビンナガに較べて体の前部が小さいが，第2背鰭や臀鰭の位置は差がみとめられず，したがつて軀幹部をあらわすような第1背鰭基底長で北太平洋のものは南太平洋のものより大きい．第8図に頭長についてのグラフを示したが，体の前部をあらわす形質について



第8図　体長—頭長関係

いては略々同じ傾向がある．尾鰭高については北太平洋のビンナガはかなり小さく，各鰭の長さについても差がみとめられている．胸鰭長の成長については第9図に示した．これによると成長の様子が水域



第9図　体長　胸鰭長関係

によつて大分ことなつている．然しながら回帰線からのバラツキが非常に大きいので同一水域からの標本間にもかなり異つた回帰の結果がえられるのではないかと考えられる．この点眼径についても同じである．以上のような形態上のちがいと，ビンナガは比較的温帯性がつよく南北のビンナガの交流に対して赤道水域が barrier 的存在であろうと考えられる点から，南太平洋のビンナガと北太平洋のビンナガとでは別の系統であり，たとえ一時期的に交流が行われたとしても，その度合は可成り低いものではなかろうか．この様な点については更に赤道水域のビンナガの形態調査を行い，その他産卵生態等の面からの究明が必要であろう．

iii）南太平洋のビンナガと印度洋東部水域のビンナガではその棲息水域が印度洋，太平洋とちがうにもかかわらず，形態的にはよく似ているといえる，体の前部をあらわす形質では特に著るしい差はみとめられず，ただ胸鰭長や眼径の大きさ等二.三の形質において差がみとめられる結果がえられた．しかし北太平洋のビンナガと南太平洋のビンナガの形態的な差と比較すれば，印度洋と南太平洋のビンナガのちがいは概してわずかである．一方印度洋東部の漁場はビンナガの産卵場であろうということは上柳（1954）によつて報告され，又，石井・井上（1956）は珊瑚海における産卵の可能性を報告しており，こうした水域のビンナガは産卵群であることが予想される．現在わが国の漁船によつては漁獲されていないが，更に南の濠洲東南部水域において20乃至30吋，即ち50～80cm位の比較的小型のビンナガが特に夏に多くみられるようであり，その分布が南緯40度のタスマニア島の南にまでみとめられることから，たとえ印度洋と南太平洋のビンナガが同一の系統のものでないとしても，濠洲南方水域をとおしての索餌群の交流の可能性がその分布と形態的な類似の面から考えられるわけである．

以上が1955年度におけるビンナガ形態調査の結果の大要であるが，今後形態的な調査の面と共に生態的な面での解析に努めて先にあげた各水域の資源間の関連性について検討を加えていきたいと思う．

照洋丸南太平洋マグロ漁場調査概要

水　　　産　　　庁

本航海は，農林省漁業調査取締船として新造された照洋丸（602.95ton，1200HP）の初航海として，南半球太平洋海域におけるマグロ新漁場の調査開発を目的として行われた．

なおこの目的の他に，往航時においてエクアパック調査の一環を分担して行い，また往還にマーシャル群島附近海域において水爆実験終了後における魚類の放射能測定を行つた．

調査員の構成

駒野船長以下照洋丸乗組40名，白石船医

監督官——水産庁海洋二課　井上技官

調査官——水産庁漁政課　小林事務官

〃　——水産庁南海区水産研究所　上柳技官

海洋観測，生物調査関係は上柳が担当し，監督官，乗組員の協同により行つた．特に生物調査に当つては乗組員の中より専任協力1名（松沢孝貞甲板員），随時協力1名という態勢で行われた．

調査項目

Ⅰ．エクアパック海洋調査（調査点15）

観測期間，海区等については表紙，附表を参照

a．気象，海象観測（0時，6時，12時，18時）

b．0，25，50，75，100，150，200，300，600，1000米の10層について測温，採水（6時，18時）

c．プランクトン採集（垂直曳50m）

d．稚魚網採集（夜間）

e．海流瓶投下（各Station 10本）

Ⅱ．漁場調査

1日1回，釣鈎1000本（250枚×4本付）使用漁具の構造は浮縄13K，幹縄200K，枝縄10K，セキヤマ8K，釣元ワイヤー2K，鈎3.6～3.8寸，ビン玉尺～尺1寸60浬平方の1海域（調査点）について3回ずつ，7調査点，即ち21回の延縄漁撈を行つた．

使用鉢数

（縄入順）

1．クレモナ　樹脂加工（青色）50鉢

（浮縄，幹縄 #20番手×55本×3×3）

（枝縄 #20×50×3×3）

2．クレモナ　コールタール染 180鉢

（浮縄，幹縄 #20番手55本×3×3）

（枝縄 #20×50×3×3）

3．テビロン　コールタール染 20鉢

（浮縄，幹縄1300×15×3×3）

（枝縄1300×13×3×3）

○セキヤマ　#27×3×3 綿糸コールタール染及び樹脂加工品（但し45鉢分）

ステイロンテグル　クレモナ（コールタール染の縄に用う）3×4本撚ローレット付，芯径1.41m/m 外径2.5m/m100本

○釣元ワイヤー　28番3×4（800本）及びステロン芯径1.29m/m（200本）使用

○一般ワイヤーには3.8寸の鈎，ステロンには3.6寸の鈎，但しステロンはセキヤマも共に消耗甚だし．終業時ワイヤー約40本，セキヤマ約40本を残すのみ．

漁場調査の内容

漁況調査

海況調査（0，50，75，100，150，200，300米各層の測温，採水，プランクトン稚魚採集）

生態調査（魚体組成，成熟，食餌，游泳層等）

Ⅲ．魚類の放射能測定調査

往還にマーシャル群島附近海域において1回ずつ延縄漁撈（100枚×4本付）を行い，釣獲されたマグロ・カジキ類について，サーベイメーターにより放射能の測定を行つた．

以上の調査により得られた資料のうち，海水の塩分検定，マグロ類の胃内容物，稚魚網採集物等については目下精査中であるが，調査結果の大要をとりまとめ以下に説明する．

調査結果の概要

本調査の主目的の一つである南半球中緯度海域のビンナガ漁場の性格がかなり明らかになり，また当初予期していなかつた Southern Bluefin と思われるマグロ（ここでは濠洲マグロと仮称）の漁場がケルマデック諸島東方海域に発見され，その他中緯度海域の海況即ちマグロ類の棲息環境についての知識を得る等，かなりの成果を収めた．

a. 海況と漁況

垂直等温線分布図から南太平洋の海洋構造には，南緯7°～8°辺りにやや急な，また18°～20°Sの海域に急激な変化が窺われる．

今航海の調査海域は南緯22°以南の海域であるが，やはり垂直等温線分布にほぼ28°～30°Sの海域にかなり顕著な変化がみられ，この海域の南北での海洋構造の相違が窺われる．

漁況（魚種組成，魚体組成）においても漁況図に明らかなように，以上の様な海洋構造と対応する如く各調査点に特徴的な性格がみられる．

◇先ず，漁況は南北の方向に変化が著しい．

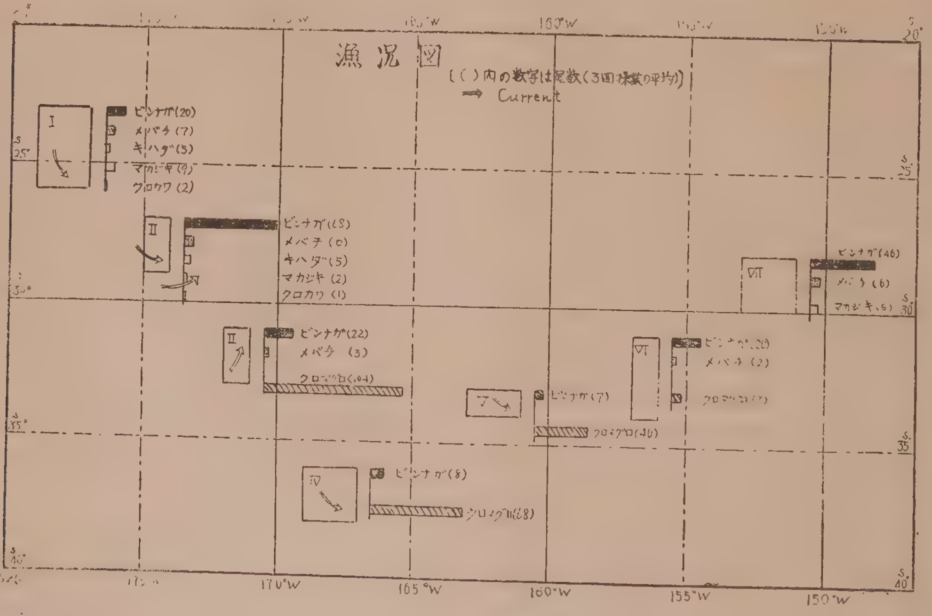
第Ⅰ点は，これより以北の海域（ビンナガ，マカジキを主体とする漁場）と同様な性格を持つているが，

第Ⅱ点は，第Ⅰ点と魚種組成においては顕著な相違はないが，ビンナガの魚体組成が一変し大型ビンナガに代り中型ビンナガが主体となつており，この*海域が海洋構造にも窺われるようにマグロ類にとつて以北の海域とは異る棲息環境となつているものと考えられる．

第Ⅲ点に至ると，更に魚種組成が一変し濠洲マグロが主体となりマカジキ，クロカワ，キハダ等は消えメバチも著減する．マンダイはかなり多くなる．ビンナガの魚体は，大，小が混るようになり漁獲は減ずる．

第Ⅲ点～第Ⅵ点は漁況からみてほぼ同様な性格を示している． これらの30°S以南の海域は以北の海域と海況が異り，水温17°C以下の低水温域である．

第Ⅶ点は，第Ⅰ点との漁況の相似が注目される．（垂直等温線分布図はかなり相違しているが），魚種組成のみでなくビンナガの魚体組成も第Ⅰ点と類似し大型ビンナガが主体となつている．また第Ⅵ点に於てはビンナガの魚体は第Ⅱ点に於けるように小型のものが（第Ⅱ点よりも更に小型であるが）主体となつていた．



以上の結果から

◇漁況は緯度に全く平行的ではなく東南の方向に傾斜を持つているようであり，このことから更に，これに対する様な海洋構造の存在が推定される．

◇ビンナガの分布については25°S以北の大型ビンナガ群を主体とする漁場の南に，それらの大型ビンナガの補充群と考えられる小型ビンオガ群の存在が明らかになつたが，30°S 以南では（正確にいえば少くともこの調査の行われた季節には），漁獲状況，魚体組成，（大，小混り）から考えて，ビンナガの分布は稀薄なものと推定される．

◇濠洲マグロについて

この濠洲マグロは後述のように日本近海産クロマグロとは勿論，所謂インドマグロとは一応別のものと考えられる．濠洲マグロの分布は，東西に相当広い分布を持つようであるが，分布密度の高い区域はかなり局限されたものと思われる．南緯38°以南の海域は操業不能な海況のため調査が行われなかつた

が，南緯40。附近にも多少とも濠洲マグロは分布するものと考えられる．

b. 生 態

◇産卵生態に関しては，メカジキを除き各魚種とも成熟の進んだものはみられず，ほとんど未熟（産卵期に遠い）の状態であつた．なおビンナガでは，北部太平洋のものと同様に体長ほぼ 90cm 以下のものは未成魚と推定された．また濠洲マグロでは体長ほぼ136cm以上は成魚，以下は未成魚と推定された．サメ類ではヨシキリに胎児を持つているものが多かつた．

◇食餌胃内容物については，目下精査中であるが，概略以下の通りであつた．全調査点を通じて，空胃或いはそれに近い状態のものが多かつた．

濠洲マグロについてみると

調査点 Ⅲ……約8割が空胃或いはそれに近い状態

〃 Ⅳ……5割が空胃，中程度が3.3割，充満が1.7割

〃 Ⅴ……7.5割が空胃，中程度が2.4割，充満が0.1割

なお，胃内容物の組成に，調査海域毎の特徴がみられた．

調査点Ⅰ，Ⅱ，Ⅶでは，キハダ，メバチ，カジキ類等の胃中からシイラ，カツオ等が主内容として出現した．

〃 Ⅲでは，イカ，ミズウオ，タルマワシ，カリナリア（浮游性軟体動物の異足類）等が主内容であつた．

〃 Ⅳでは，以上の外に，エビの出現が顕著であつた．また魚類では，ホウネンエソ，ハタカエソ類が出現した．

〃 Ⅴでは，以上の外に，サンマの幼魚が出現した

〃 Ⅵでは，以上と大体同様，同じメカジキの胃中からカツオが出現した．

〃 Ⅶでは，上述のカツオの外に，シマガツオ科の幼魚，ベンテンウオ，キンメタイ科，マンボウの幼魚等が出現した．

濠洲マグロが漁獲された30° S 以南の海域では，サンマ（日本近海のサンマとは体型がかなり相違している）の幼魚が夜間稚魚網で採集され，特に調査点Ⅳ，Ⅴでは，体長 10cm 程度のサンマが夜間灯下に群游していた．同時に大きなヒカリボヤも浮游していた．

c. 濠洲マグロについて

濠洲マグロのクロマグロ及びインドマグロとの異同については目下検討中であるが，現在までに知られた範囲でこの点にふれると

（形状）

内部構造

a. 肝臓，形状はクロマグロやインドマグロと同様であり，表面の血管叢は発達して中心から縁辺に放射状に走つており，特に中心部が密である．

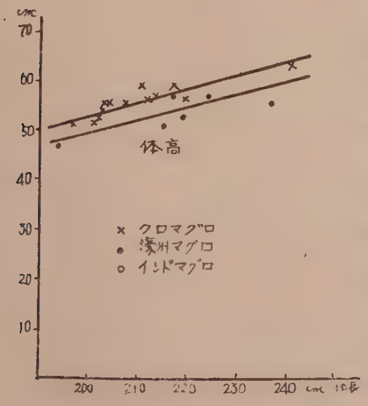
b. 鰓耙数，以下の様に範囲が重複しており，ほとんど差が認められない．

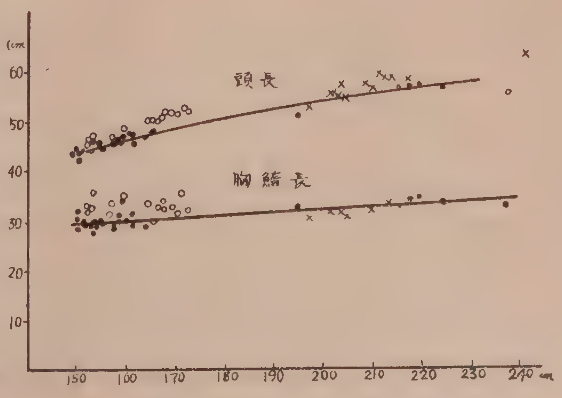
	上	下	合 計
クロマグロ	12〜13	24〜26	36〜39
*クロマグロ	10〜14	21〜25	32〜39
濠洲マグロ	10〜13	21〜24	32〜37
印度マグロ	9〜18	21〜24	31〜35

*アメリカ太平洋

資料の関係からクロマグロは体長範囲190〜240cm，インドマグロは 150〜175cmについてしか濠洲マグロと比較出来ない．従つて以下に述べる所は，その様な条件の下でということである．

a. 胸鰭長（下図参照）





濠洲マグロはインドマグロに比してやや短いようである.

b. 頭 長

濠洲マグロは，クロマグロ，インドマグロと比べて，頭長は短く，またその相対成長率も小さい傾向が窺われる.

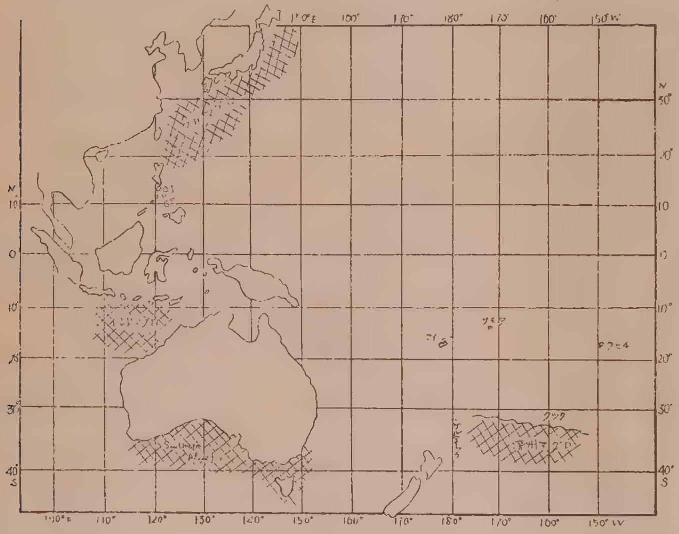
c. 体 高

濠洲マグロは，クロマグロに比して小さい.

d. cより，濠洲マグロは，クロマグロ，インドマグロに比して腰長型であることが想定される.

（分布）

下図は，夫々のマグロ及び Southern bluefin の漁場分布を示したものである．濠洲マグロが日本近海のクロマグロとは全く分布を異にすることは明らかであるが，インドマグロとも図から判断して余り関係がなく，Southern blufin と関係が深いものではないかと考えられる.



以上の（体型）（分布）から濠洲マグロは，日本近海のクロマグロ及びインドマグロとは一応別箇のものと考えることが妥当であろう.

Southern bluefin との関係については更に検討を要するが，Southern bluefin について，体重12〆以下のものは未熟であると報告＊されている点は濠洲マグロについてもほぼ一致する.

＊『鮪漁業研究会発行の鮪漁業第8号所載の「オーストラリヤにおけるマグロ漁業について」山本訳一（Fisheries Newsletter 1954）よりの抄訳』より.

この概要報告で仮称してきた濠洲マグロは恐らくSouthern bluefinと推定される.

なお，註記の報告に，Southern bluefin をインドマグロと訳してあることは，検討を要する点と思う.

（調査結果の詳細については，南海区水研発行のパンフレット照洋丸南太平洋マグロ漁場調査概要を参照せられたい．編集部）

謹賀新年

高級カメラ

現像
焼付
引伸
は一日仕上の優秀な技術と設備を誇る当店へ

在庫豊富
外国製高級機
国産優秀機
ソノ他カメラ支換月賦販売

アラヰ寫眞機店

【防衛大学校指定】

本店　横須賀市本町1ノ1（ロータリー角）TEL 600.2672
営業所　三浦市三崎町上橋　TEL 653
売店　防衛大学校学生P.X

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵

設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話下谷（83）0996番

謹　賀　新　年

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産 一七屯 ――― 冷蔵収容量 六〇〇屯

製氷能力　日産 五〇屯 ――― 貯氷能力 五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）609・655 番

日本冷蔵株式会社 三崎工場

工場長　遠藤　彪

神奈川県三浦市三崎町宮城103

室戸岬船員同志会

会長　中谷清明

室戸岬事務所　高知県安芸郡室戸岬町
電話（室戸）260
浦賀出張所　横須賀市西浦賀町1の3
電話（浦賀）635・115

アクチブラダー輸入発売元

第一物産株式会社

東京都港区芝田村町1の2
電話東京（27）代表0361（28）1831

合資会社

三崎無線電機工業所

神奈川県三浦市三崎町花暮130
電話 三浦 543・431

割烹旅館

温　泉　亭

神奈川県三浦市三崎町日ノ出
電話 三浦 19

イ ワ ノ 薬 局

神奈川県三浦市三崎町日ノ出
電話 三浦 249

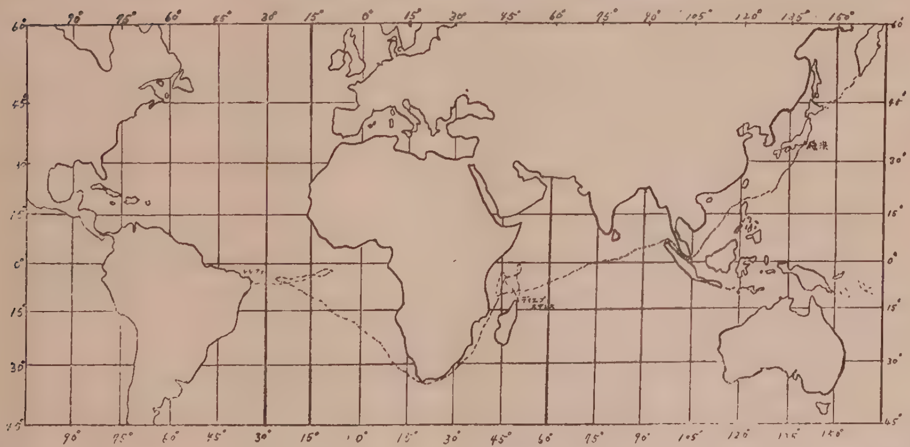
相模丸による大西洋鮪漁場開発事業第一次航海の概要

神奈川県水産試験場漁撈部

神奈川県遠洋漁業指導船相模丸は，大西洋方面の鮪漁場開発と市場調査を目的として本年9月，日本を出発して長期航海の途につき，インド洋及び大西洋において操業調査の後，12月19日ブラジル国レシフエ港に入港したので，この間における同船の行動の概要について述べたいと思う.

昭和31年9月17日	12.00	盛大な歓送を受けて横浜出港.
21日	12.00	21°～10′N，130°～10′E沖大東島S200マイル台風を警戒しつつ半速にて南下.
23日	09.00	バリンタン海峡通過し，南支那海に入る.
29日	21.00	シンガポール水道に入る．海流瓶50本投入.
10月 2日	07.40	マラッカ海峡を出て，インド洋に入る．海流瓶投入.
12日	12.00	07°～55′S，56°～40′E，マダガスカル島NE480マイル.
15日	12.00	08°～09′S，43°～16′E，インド洋漁場調査開始.
16日	18.30	漂泊し機関整備.
17日		漁況悪しキワダ小型多く平均7.8〆
27日		揚縄後，陸上調査のためマダカスカル島デイエゴスワレズに向う.
28日	14.00	戦後初の日本船としてデイエゴスワレズ入港.
31日	12.00	デイエゴスワレズ出港.
11月 2日		スエズ動乱のため北上を中止し，ケープタウン廻りブラジル国レシフエに向う.
6日	12.00	09°～51′S，43°～30′E，コモロ島を左舷に見て南下，ケープタウンへ向う.
9日		海流瓶投入.
11日	12.00	30°～00S，32°～50′E，天候C，風SW6，気圧1013，気温24.0°C，水温22.6°C．喜望峰近く昨夜半より時化となる.

神奈川県遠洋漁業指導船相模丸航跡図



横浜出港	31—9—17	デイエゴスワレス出港	31—10—31	インド洋漁場操業回数8回
インド洋漁場者	31—10—15	大西洋漁場者	31—11—25	大西洋漁場操業回数19回
インド洋漁場発	31—10—27	大西洋漁場発	31—12—17	
デイエゴスワレス入港	31—10—28	レシフエ入港	31—12—19	

インド洋漁場調査表

月日	回数	位置	気象海象						漁獲物						備考
			天候	気圧	気温	風向力	水温	波浪	キハダ	メバチ	カジキ	ビンナガ	雑	合計	
10. 15	1	08°～09′ S 43 ～16 E	bc	1011	25.0	S E 3	26.3	3	38	8	11	1	—	53	枚 600〆 420(4本)
17	2	08 ～50 S 41 ～57 E	b	1011	25.0	N 2	26.4	2	111	9	5	15	3	143	1,700〆 〃
18	3	08 ～52 S 42 ～03 E	bc	1010	24.8	E/S 3	26.6	2	53	12	17	12	3	97	1,100〆 〃
19	4	推測09 ～06 S 40 ～58 E	bc	1010	25.0	E S E 4	26.5	3	44	9	18	10	—	81	1,010〆 〃
21	5	03 ～00 S 43 ～03 E	b	1008	25.5	S E 4	26.6	3	63	36	13	—	6	118	1,500〆 〃
22	6	04 ～41 S 44 ～04 E	bc	1009	25.5	S E 4	26.6	3	23	37	7	—	3	70	1,000〆 〃
24	7	05 ～01 S 45 ～02 E	c	1008	26.7	S E 4	—	3	35	33	11	—	5	84	1,000〆 〃
26	8	04 ～22 S 46 ～19 E	bc	1008	27,0	E S E 4	26.7	3	20	33	18	1	6	78	990〆 〃
計									382	177	100	39	26	724	8,900〆

13日　12.00　34°～37′S，23°～55′E，風ＳW6，気圧1010，気温19°0Ｃ，水温19.0°Ｃ，波浪6，連日風浪高く難航を続ける．風力8に及んだ．

14日　12.00　34°～57′S，19°～34′E，天候6，風ＷＳW6，気圧1017，気温19.0，水温17.7，波浪4，ケープタウンは入港船舶非常に多く，予定を変更してケープタウンに入港せず，今日より大西洋北上開始，時化．

15日　風向 S/E に変り風力5，波浪4．

16日　12.00　29°～36′S，10°～31′E，天候Ｃ，風ＥＳＥ4，波浪4，連日凪悪し．

18日　凪となる．異常なく大西洋北上中．

21日　12.00　16°～10′S，08°～25′W，セントヘレナ島W100マイル．

25日　12.00　05°～40′S，28～09′W，大西洋漁場調査開始，420枚．
水温0m--25.7°Ｃ，50m—25.7°Ｃ，100m—24.5°Ｃ，150m—15.5°Ｃ，200m—11.8°Ｃ．平均体重　キワダ—17.4〆，メバチ—20.8〆，ビンナガ—7.7〆

29日　魚体大きく凍結に時間を要するため投縄せず漂泊．

12月 4日　調査開始以来キワダに体重14〆以下のものなく平均18.0〆．

6日　凍結の都合により漂泊，昨日投縄の際に投入のラジオブイ１ケが６時間後に感度なく揚縄後点検したところ大破して原型を止めぬ状態であつた．他船のスクリユーによつて破かいされたものと推定される．ラジオブイは操業当初より使用し機能良好である．

12日　漁獲魚平均体重　キワダ17.6〆，メバチ13.8〆，ビンナガ6.6〆，マカ6.5〆，クロカワ23.4〆，バセウ6.6〆　本日以後クロカワ以外のカジキ類は投棄する．クレモナ樹脂加工ロープ釣獲率よし，枝縄，釣元ワイヤの切断，損耗が甚だしい．魚体が大きくワイヤの強度が不足している為と思われる．

17日　12.00　06°～15Ｓ，23°～07′W　補機故障し投縄せずレシフエに向う．

19日　15.00　レシフエ港外着．

大西洋漁場調査表

月日	回数	位置	気象海象						漁獲物						備考
			天候	気圧	気温	風向力	水温	波浪	キハダ	メバチ	ビンナガ	カジキ	雑	合計	
11. 25	1	05°~40′ S 28 ~09 W	c	1006	25.2	E S E 3	25.7	2	23	12	129	25	18	207	2,029〆 420枚(4本付)
26	2	05 ~17 S 26 ~47 W	bc	1006	25.0	E S E 3	25.0	4	46	6	136	40	3	231	2,400〆 420枚 〃 他クロマグロ 1
27	3		c	1009	25.0	E S E 3	26.0	4	67	13	149	25	19	273	3,024〆 420枚(4本付)
28	4		c	1009	27.0	E S E 4	26.1	3	86	7	132	26	24	275	3,325〆 〃 〃
12. 1	5	04 ~30 S 15 ~54 W	bc	1009	25.0	E S E 2	25.6	2	84	7	174	37	2	304	3,369〆 350枚 〃
2	6	03 ~44 S 10 ~02 W	b	1010	24.5	E S E 3	24.8	2	83	3	140	19	10	255	2,925〆 〃 〃
3	7	03 ~24 S 09 ~27 W	bc	1009	25.4	E S E 2	24.8	2	68	5	130	11	31	245	2,700〆 〃 〃
4	8		c	1008	24.8	S E 4	24.6	4	118	2	141	7	26	294	3,615〆 380枚 〃
5	9	04 ~33 S 08 ~22 W	b	1009	23.2	E S E 3	24.9	2	88	6	136	10	32	272	3,085〆 〃 〃
7	10	03 ~57 S 08 ~45 W	b	1008	32.9	E/S 3	24.6	1	158	5	93	2	1	259	3,458〆 〃 〃
8	11	03 ~58 S 09 ~00 W	b	1007	24.0	E 3	24.5	3	90	6	129	8	31	264	3,039〆 〃 〃
9	12	04 ~06 S 08 ~53 W	b	1007	25.0	S E 4	24.9	2	94	2	130	5	16	247	凍結の都合で 2,870〆 340枚 〃
10	13		r	1008	24.8	E 3	24.3	3	43	8	102	11	19	183	2,000〆 〃 〃
11	14	推測 04 ~01 S 08 ~40 W	c	1006	25.1	E 3	24.7	3	77	14	129	26	4	250	2,635〆 〃 〃
12	15	04 ~03 S 08 ~40 W	bc	1006	24.5	E 2	24.7	2	63	12	134	4	—	213	クロ以外カジキは以後投棄す 2,358〆 340枚(4本付)
13	16	04 ~08 S 08 ~45 W	b	1006	24.6	S E 3	24.8	2	40	4	107	7	—	158	1,632〆 〃 〃
14	17	04 ~20 S 10 ~33 W	bc	1006	24.3	E S E 3	24.6	3	40	—	134	7	4	185	1,954〆 〃 〃
15	18	03 ~55 S 14 ~47 W	b	1006	24.7	E/S 4	25.2	5	44	6	125	25	3	203	2,000〆 〃 〃
16	19	05 ~33 S 18 ~57 W	bc	1006	26.4	E S E 5	25.6	4	58	10	100	38	—	206	2,368〆 〃 〃
計									1752	305	2550	372	269	5248	59,686

（以上）

濠洲マグロ試食会記

会　員　野　村　俊　造

鮪に関心をもつ人は，昨年10月の新聞紙上に水産庁の指導船照洋丸が西経151° 南緯30—35°の新漁場で，今までその附近では全く見られなかつた黒まぐろが相当漁獲された事，その肉質が素晴しく良いという情報に強い興味を頂いたことと思う．「新種まぐろ発見さる」という見出しは日夜鮪と取組んでいる我々にとつてセンセーショナルな記事であつたし，三崎の漁業者からも之についての照介や問合せが舞いこんでその応接に困つた程である．

同船の入港後もその鮪の水揚相場はどうか？　品物はどんなものか？　種類は？　等の疑問が多く，直ぐにも同方面に船を廻そうかという気の早い船主さえ現われ始めた．この様にこの新発見の鮪についての関心が高まつた頃水産庁からこれを試食して批評して欲しいという註文と共に凍結されたフイレー1尾分が水産試験場に届けられた，凍結状態の肉色は殆ど普通のキハダの凍結品と大差ない様で見ばえも悪くはない．

12月6日，三崎の楽水会館で鮪漁業研究会の主催の試食会が開かれた．漁業者，船員，加工屋さん，魚問屋さん，水校の先生，水試職員など約50名に加えて三崎の新聞報道陣全員が参加して仲々の盛会であつた．

広くもない楽水会館の会議室の卓上には所狭しと大皿に盛りあげた刺身の山，洋皿に体裁よくバタいためのテキが並べられ，隅の方にはすき焼鍋二つに，ぐつぐつと，ねぎまが美味しそうなにおいを立てている．

刺身にはつきものというのか，それとも之なしでは味が判らんという意味か，サービスよく，お銚子も各人1本当位並んでいる．

宴会や家庭で食べるのと違つて皆箸でつまんではためつすがめつした後，おもむろに口に入れ，真剣な顔つきで味を味つている．

丁度昼食時だつたせいもあるだろうが思つたよりも美味しいという批評で最後に試験場の若い連中が舌なめずりして立上つた頃はさしもの大皿もあらかたきれいに片ずけられていた．

試食後の批評は刺身については色は全員不可としているが，味，臭，鮮度等については可とするものが大部分であり，調理したテキやネギマについては色や味については若干の批判はあるが，先ず上等の部類に属するというのが大部分の意見であつた．

刺身の色については，単的に言つて，チヨコレート色といつてよいだろう．之は赤味のまぐろを凍結したものは色が黒ずむため刺身には不向であるという巷間の説を裏書きしている様であるし．大部分の意見としては東部印度洋でとれる所謂インド鮪と全く同じであるということである．

インド鮪も船上では色も良いし味もよいが，持帰つて水揚すると色が悪くなるという訳で敬遠され勝である．

ところがこのチヨコレート色のまぐろもテキにすると色も白く味はよし仲々の好評であるし，ネギマに到つてはすこぶる美味，へたな黄肌より上等という批評も出ている．

要するに，鮪即ち刺身，という観念がこのまぐろの価値を不当に低下している様である．批評にも鮪即ち刺身という観念から一歩ぬけ出してもつと鮪の加工利用面を考えるべきだという意見が多く見られる．

又凍結方法又は解凍方法の改善によつて，肉色も，もつと良くなるのではないか，今のチヨコレート色だけをみて直に漁獲の対象とするに足らずと片ずけて了うのは早計にすぎるという意見もある．

要するに，このまぐろの試食会で問題になつたのは刺身にした時の肉色である．之は確に極端な例ではあろうが考えてみるとキハダやメバチ等の鮪類についても同じことが言えるのではないだろうか．

海から揚つた時の新鮮な肉色を保つたまま市場に水揚される鮪はどの位あるか．勿論鮪の値段が色だけできまるものでなく，鮮度，色，脂肪，味等の綜合的な評価が魚価となつて現われるのだが飛切り高値をつけられる鮪の数は1船でも非常に少いものである．
生きている時の新鮮な色をそのまま保つことが出来た

らということは船に乗つている者の誰もが抱く夢であろう．

鮪のプレスハムを造つた時の経験では細切した鮪肉に微量の塩と硝石を加え凍らない程度の低温で数日放置すると肉の赤色は更に鮮紅色に美しくなり完全に固定して多少の熱を加えた位ではさめなかつた．

丸の鮪に船内でこの様な処理をすることは困難であろうが可能性がない訳でもなさそうである．鮪ももつと利用面を拡げることが今後の需要を増すのに必要な大きな課題であろう．　　（神奈川水試調査部）

鮪類標識放流について

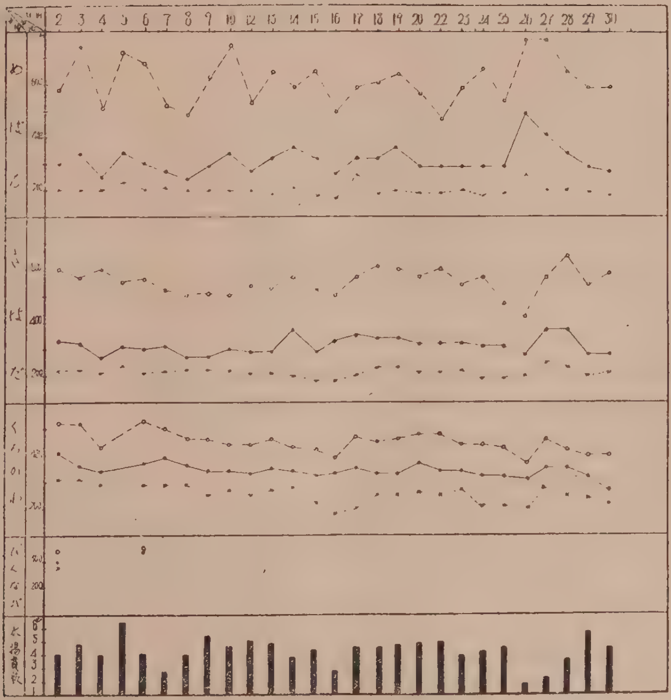
1．昭和31年10月26日から12月31日迄の間に標識の委託をなした船数は9隻（65本）である．

2．昭和31年10月26日から12月31日迄の間に放流実施の報告のあつた船数は2隻（3尾）である．

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種	体長
No.1 さつま丸	A0191	昭31．9．18	2°～10′N 68°～53′E	メバチ	33cm
No.2 順光丸	C0147	昭31．10．	31°N 147°W	メバチ	100cm
〃	C0149	昭31．10．	30°N 149°W	メバチ	40cm

（神水試調査部）



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十一年十一月

昭和32年水産界の目標

岩 吉 松 之 助

これは素人の議論である．

昭和32年の我が国水産界の前途と言うか，それとも目標と言つたらよいのか，本年は沢山の問題が賑やかに登場することだろう．

併しながら新しい問題と言つても生物学の突然変異説のように，突然に新しい問題が降つて湧くのでもないし，問題は前々からの連続なのである．

昭和32年に起るであろうと考えられる水産界の問題は，31年からの持ち越しであり，或いは長い目で見るならば，日本の水産界が始まつて以来，神代からの問題なのかも解らない．

ここいらが素人の素人たる所以の議論であり，素人である故の暴論，迷論だから玄人筋が笑つて読み捨てられても一向に痛くも，痒くもない素人の強味でもある．

31年の問題を回顧するのが，32年の問題の手引ともなると思うので，31年の問題の中から主なものを拾いあげてみよう．

サンマ問題

サンマ問題位，人を喰つたように変化して業界を攪乱したものはないであろう，昭和39年に〆めて8千貫の漁獲量が30年に1万3千貫と飛躍したので，大漁貧乏で大騒ぎをし，折角獲れたものを採算割から再び海中に遺棄して値上りを図るような暴挙も出来ないし，東北一帯のサンマ漁場では，魚粕を作つて，魚油と魚肥の両面から価格の安定を計画し，来る31年の大漁貧乏を文字通りの大漁万歳にする目的で，魚粕製造の設備をやたらに設備したところ，去る31年はサンマの漁獲は7千貫にガタ落ちしただけでなく漁場も，東北から北海道に転位して了つたので，今更乍ら追取刀のサンマ対策は，物の役にも立たず，設備は徒らに遊休化して魚を煮る大きな鉄の釜は，雨水を溢えて天水桶となつている．魚は人間の浅智慧を笑つているかも解らない．32年のサンマは北海道に現われるか，東北に大挙押し寄せるのかは，残念乍ら今から予断は出来ない．

北洋漁業

古るい昔から北洋の漁場では，日本人とロシヤ人が魚類，海獣類の奪い合いをやつて小競合を続けて来たが，この2，3年来の様子を見ると，小競合は飛躍して大喧嘩になりそうである．鮭も鱒もあわせて日本は15万トンを要求しているが，情報によるとソ連は8万トンを承知するらしい．15万トンプラス8万トンを2で割つて10万トンは最少ではあると，易者だけがが知つている計算の根拠を頼りに，もう已に10万トン妥結で交渉の見透しがついた様に言つているが，ソ連は日本の主張を打ち負かす為めにはありとあらゆる手段を使い，北洋資源の科学的調査資料を目の前に叩き付けて，いささかも主張を譲ろうとはしない．無理に日本の主張を通す積りなら，15万トンと8万トンの差引差額量をソ連に輸出することを強制されるだろう．この輸出はソ連の東欧諸国に対する従来の方策から考えても，先ずまず只で進呈することになりそうである．

石油外貨割当

全漁連は全石連と鎬を削つて石油の外貨割当の要求を貫徹する積りでいる．漁業に必要な石油を，全漁連の名の下に一括して確保し，漁業者に対する供給を全漁連が掌握する計画である．漁業者の利益を，漁業者に代つて代弁するのは養に結構な話であるが，その裏面には漁業者に対する供給手数料—10年前なら配給統制手数料—を取つて全漁連ビルの建造を予期している由であるが，結構なのか，不結構なのか素人には解らない．

国際捕鯨会議

ノールウエイは捕鯨会議から脱退して，自国の都合のよいような事を考え，実行しようとしている．ソ連は，北洋の鮭鱒問題を取りあげ，殊更に，北洋会議をでつち上げているけれども，こと捕鯨の問題になると単独行動をあえて勇敢に試みている．捕鯨会議などは知らぬ顔を極め込んでいるが，どの国もこれを強制する力はないらしい．

国際会議とは先ずこんなもので，力の強い国が利益を擁護する為めに小国を御無理，御尤もで引下らせることである．

李ライン問題

果てしなく引き続いている李ラインをめぐる紛糾事件は抑留漁夫が8百名を超すまでになつた．最近は，大型漁船は勿論のこと零細漁船まで遠慮なく，抑留している．韓国はこれでもか，これでもかと理窟なしに日本の漁夫をさらつている．李ラインを承認すると，漁夫を返還するとのことだけれども日本国内で，麻薬

を密造販売したり，ピストルを振り廻わしたり，兇悪犯の見本のようなのを大村の収容所に手厚く保護して貰い，充分の手当を尽くして温存させ，世界に類のない，突拍子な李ラインを日本の沿岸まで張り廻らして，玄海灘の水産物を独占する方策は合点のいかぬものである．日本からも？線を張り出して，釜山附近の沿岸から済州島までを網の中に包んで了うと，二重のラインが交錯して，中間の魚を誰れのものにするのが一番理窟に合つた話になるのかは，骨を抜き取られてクニヤクニヤになつている国際公法の慨きである．

この他，日中漁業会談，捕鯨船団の売船問題，資源会談，鮪船の遠洋漁業問題など素人には頭の痛い話ばかりなのが，どうやら昭和32年の日本水産界らしい．

謹賀新年

株式会社 緑星社

代表取締役 吉田内次

研究所 東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）
電話（54）2371
営業所 東京都中央区小田原町2の11 電話（54）7679番
函館出張所 函館市根崎町140

漁船には専門メーカーの
穂高の漁業無線機を
★ 最新の技術と堅牢・高性能を誇る

500W
250W
150W
120W
75W
50W
35W
25W
10W

穂高通信工業株式会社

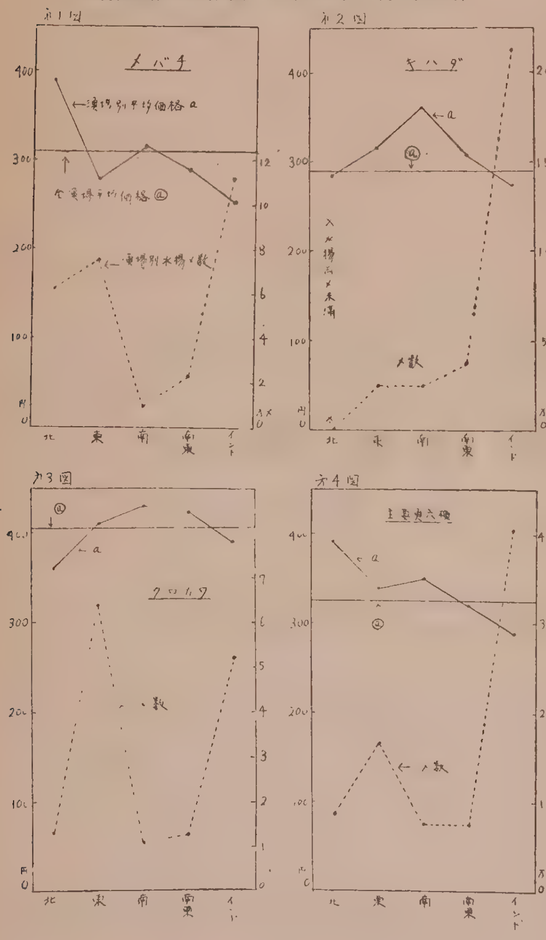
本社 東京都新宿区下落合1—6 TEL（95）2595・6219
大阪営業所 大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル TEL（44）5792・4109
東京工場 東京都新宿区下落合1—6 TEL（95）2595・6219
長野工場 長野県南安曇郡穂高町2579 TEL（穂高）61
代理店 小樽・函館・八戸・気仙・沼石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子・三崎・清水・焼津・室戸・下関

鮪類漁場別価格表　昭和31年10月（三崎）

農林省神奈川統計調査事務所三崎駐在所
農林事務官　佐　藤　　務

鮪漁業は他の漁業に較べるとその漁場は全く広範囲に亘り，漁場によつて漁獲物の価格も異るので，当所では関係者の方々の御参考の一部にでもなればと考え，鮪類の漁場別価格の調査を試みている．当所で分類した漁場区分の妥当性や，同一漁場においても大型船と小型船とでは鮮度の良否に差もあるので，価格の成立条件は必ずしも同一でないことなど，まだまだ考慮しなければならない問題も多いようであるが，当誌より掲載の機会を与えられたので今月分より二の価格表を掲載した．

鮪類漁場別価格表　昭和30年10月（三崎）



今月三崎港に水揚をした鮪漁船（50屯以上）は50隻で屯数階層別には大型(300屯以上)12隻，中型（200屯～300屯）9隻，小型（50～200屯）29隻である。これら水揚船の操業漁場別ではインド洋21隻，東太平洋11隻，南太平洋6隻，北太平洋6隻，南東太平洋5隻，近海1隻となつている．

魚種別としてはここに掲げた三種の他マカジキ，メカジキ，ビンナガ等があるが，量的に少ないので除外した．漁場別の水揚量で最も多いのはインド洋の48万貫である．このインド物を昨年10月と比較してみると，メバチが昨年より29円，キハダが20円，クロカワが16円とそれぞれ安くなつている．ここに図示してないマカジキでは今年382円で昨年より89円値下りし，ビンナガは325円で49円高となつている．

各漁場別価格をそれぞれ先月の価格と比較すると，メバチではインド16円，東で18円.南.南東で55円，北で30円と値上り，キハダではインド4円，東35円，南および南東53円上伸．クロカワではインド39円，東24円，南及び南東26円の値上りをみている．

換場区分

北太平洋—20°N以北 170°E以東（ミッドウエー海区及びハワイ北方漁場）

東太平洋—5°—20°N 170°E以東（ハワイ南西，南東海区主漁場）

南太平洋—旧南洋庁沿海南部170°E以西及びソロモン，ニユーカレドヤ海区）

南東太平洋—ハワイ南西，南東海区5°N以南，サモア，トンガ海区及びその東方漁場）

インド洋—バンダ・フロレス海区を含むインド洋

註 *この調査では冷凍物，直送物は除外してある．

*第4図は魚種別を考えない漁場別主要漁獲物（メバチ，キワダ，クロカワ，マカジキ，メカジキ，ビンナガ）の合計貫数及び総平均単価である．

本会の図書誌の分譲其他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌　【鮪 漁 業】　第 6—36 号（第1—5号品切）{第6—28号各100円 郵送料16円 / 第29—36号各150円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）

1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）

1 部　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料　40円

漁 場 天 気 図（東部印度洋、25°N—25°S　西部太平洋 80°E—150°E）昭和 29 年 8 月版

1 部　250円　（B 3 判 50 枚綴）　郵送料　48円

鮪 漁 船 操 業 図　（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）

1 枚　50円　郵送料　8円

鮪　漁　場　図　（32 海区劃に表示したもの）

10 枚　100円　郵送料　16円

——お　願　い——

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会費送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎鮪漁船必携の教書とも云うべき鮪類水揚地調査報告（昭和 28 年度、昭和 29 年度分）は鮪船には是非備付けるようにしたいものです。御希望の向は代金 500 円（28.29 年度二冊特価郵送料共)を添えて本会宛御申込下さい。

◎明けましてお芽出度うございます。本研究会も誕生以来 4 年目の春を迎えました本日会誌第 36 号新年増大号をお届けしますが第 2 年目、第 3 年目の会費の未納の方は本会宛払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。

鮪　漁　業

1957年1月号

昭和 32 年 1 月 10 日 印 刷
昭和 32 年 1 月 10 日 発 行
監　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅　野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪 漁 業 研 究 会
（振替貯金口座横浜　1 4 7 2）

頌

春

一九五七年

事代漁業株式会社

取締役社長　寺本正市

本社　神奈川県三浦市三崎町花暮147
電話　三浦　378・56番

住吉漁業株式会社

社長　四宮秀雄

神奈川県三浦市三崎町入舟62
電話　三浦　603・835番

横須賀市長
梅津芳三

三浦市長
川崎喜太郎

大物業会

会長　石宮北川宮蔵
副会長　古川古川正雄
同　鯉古支店　扇浦良男

事務所　東京都中央区築地5の1
東京都中央卸売市場内
電話東京（54）1171—9 2171—9 内線294

三崎魚類株式会社
三崎町魚商協同組合

神奈川県三浦市三崎町西野92
電話三浦　市外専用 570—4　市内専用 670—4
事務専用 575—6　製函部用 675

謹賀新年

—— 1957 ——

三崎沿岸漁業協同組合連合会

会長　宇田川勝次

神奈川県三浦市三崎町西野92　電話 30・211・408
製函部　電話　579の甲

製氷・冷蔵・凍詰・餌料

三崎遠洋漁船製氷株式会社

取締役社長　四宮秀雄
取締役副社長　米沢六蔵

神奈川県三浦市三崎町六合2448　電話 356・372

三崎漁業協同組合連合会

（製氷冷凍工場）

会長　寺本正市

神奈川県三浦市三崎港
電話三浦609・655番

神奈川県水産試験場

調査部

野村俊造　斎藤寿郎　下里武治
中込　淳　藤平恭一　加瀬英彦

鮪漁業研究会

会長　菅野　進
副会長　四宮秀雄
専務理事　伊藤順男

神奈川県三浦市三崎町向崎
電話 338・118番

謹賀新年

神奈川県石油業協同組合
三崎支部

株式会社 阿部喜商店 ・ 出光興産株式会社三崎出張所
合名会社 香山石油店 ・ 株式会社 亀井商店三崎支店
共栄石油株式会社 ・ 株式会社 吉沢石油店
東亜石油株式会社三崎営業所 ・ 湊商事株式会社三崎出張所
三崎石油株式会社 ・ 日本民薬産業株式会社三崎出張所
下竹石油

輸出ヴイタミン油・罐詰・冷凍魚
遠洋漁業・各種魚類肝臓買付

湘南水産工業株式会社
東邦食品工業株式会社

神奈川県三浦市三崎町二町谷3806の4
電話三崎 370番・362番

諸官庁船——遠洋漁船——御用

創業50年
最良の品質
最善のサービス
を誇る

株式会社 **安保商店**

▷三崎御入港の節は何卒
御引立の程御願い致します◁

電話三崎 116番

魚問屋・水産加工漁業

株式会社
長谷川広吉商店

神奈川県三崎港
電話 三崎 37番

鮪延縄漁具一式
船具・漁具・工具・塗料
製造販売

株式会社
山星商店

本社 東京都中央区月島通4の5
電話 深川 (64) 1959
営業所 神奈川県三浦市三崎町海南 54
電話 三崎 54

日本輸出冷凍水産物検査協会

東京都千代田区霞ケ関3の3（鋼鈑ビル）
電話東京 (59) 9028・9029

日本冷凍食品輸出組合

東京都千代田区霞ケ関3の3（鋼鈑ビル）
電話東京 (59) 8652・8653・2865

謹賀新年

—1957—

大都魚類株式会社

代表取締役　林　誠次

本　社　東京都中央区築地5の1
電話築地(55)9013
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町仲崎190

東貿易株式会社

代表取締役　石関自助

東京都千代田区丸ノ内2の2（丸ビル）
電話(20)4539番

五洋水産株式会社

本　社　東京都千代田区丸ノ内2の29(丸ビル6階)
三崎営業所　神奈川県三浦市三崎町二町谷
石巻出張所　石巻市門脇75

宝幸水産株式会社

本　社　東京都中央区新富町3の2
三崎営業所　神奈川県三浦市三崎町宮城5

丸高水産株式会社

本　社　東京都中央区小田原町2の4
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町
館山出張所　館山市丸高水産館山冷蔵庫

三信汽船株式会社

本　社　東京都千代田区丸ノ内1の6の1
海上ビル新館7階
電話(28)4516—8

柳下漁業株式会社

社長　柳下弥三郎

神奈川県三浦市三崎町日の出41
電話三浦446番

謹賀新年

昭和三十二年元旦

株式会社

山口県漁業公社

社長 天野郡治

本社 下関市大字大和町30
電話下関(2)6058番
三崎事業所 神奈川県三浦市三崎町花暮141
電話（三浦）732の甲

東邦水産株式会社

本社 函館市中浜町8の1
電話 654・4896番
三崎出張所 神奈川県三浦市三崎町宮城103
電話三浦772番

かくじう水産株式会社

社長 畠山泰蔵

本社 宮城県気仙沼市魚町
電話117番
出張所 神奈川県三浦市三崎町宮城
電話4番

大成水産株式会社

神奈川県三浦市三崎町仲崎142
電話三浦379番

順光漁業株式会社

代表取締役 水野平吉

神奈川県三浦市三崎町花暮146
電話（三浦）77番

鎌田漁業株式会社

神奈川県三浦市三崎町花暮17
電話（三浦）530番

報国水産株式会社

社長 江島静男

東京都中央区小田原町1の1
電話（54）1941—3番

孝勇丸

孝勇丸漁業生産組合

佐藤孝吉

神奈川県三浦市三崎町白石3,936
電話三浦771番

謹賀新春

併謝平素疎遠
尚祈貴家万福

昭和三十二年元旦

焼津遠洋漁業協同組合

静岡県焼津市中230

用宗遠洋漁業株式会社

静岡市用宗1318

神奈川県鰹鮪漁業者協会

会長　菅　野　進
主事　水　戸　邦　雄

神奈川県三浦市三崎町　電話375

福　吉　丸

吉　田　清　八

神奈川県三浦市三崎町東岡
電話三浦709番

静岡県焼津市中234

焼津漁業協同組合

組合長理事　近藤久一郎
専務理事　滝口佐左衛門
常務理事　近藤勝次
同　　　　服部毅一
常任監事　見崎鹿造

昭和漁業株式会社

社長　服部亀吉

本　社　静岡県焼津市城の腰115の1

清寿漁業株式会社

静岡県清水市港町3の3

拓洋水産株式会社

神奈川県三浦市三崎町花暮
電話三浦８番

福生水産株式会社

取締役社長　福　島　福　一

神奈川県三浦市三崎町花暮121
電　話　252・837番

乾水産株式会社

本　　社　神戸市生田区海岸通3
三崎営業所　神奈川県三浦市三崎町宮城

大　黒　丸

山　村　利　久

神奈川県三浦市三崎町花暮163
電　話　71　番

全　功　丸

奥　津　政　五　郎

神奈川県三浦市三崎町花暮182
電　話（三　浦）6　番

頌春

昭和三十二年元旦

薩　州　丸

伊議漁業株式会社

社　長　伊　藤　由　五　郎

神奈川県三浦市三崎町仲崎85
電　話　825・445番

小島大黒丸

小　島　政　夫

神奈川県三浦市三崎町仲崎161
電　話　2　0　3　番

光　栄　丸

金　沢　徳　尾

神奈川県三浦市三崎町花暮132
電　話　321・836番

崎　吉　丸

崎　島　理　平

神奈川県三浦市三崎町
電　話　653　番

謹賀新年

昭和三十二年元旦

漁業・水産物売買・製氷・冷蔵・冷凍・貿易

琉球水産株式会社

取締役会長　国場幸太郎

沖縄那覇市西新町2の7　電話（代表）1191番

兵助丸漁業生産組合

神奈川県三浦市三崎町西浜46
電話（三浦）760番

共和丸漁業生産組合

神奈川県三浦市三崎町六合2254
電話（三浦）351番乙

鮪延縄・撚糸・製造販売
浦賀製氷冷凍工場営業取扱
三馬ゴム株式会社特約店

神奈川県漁業協同組合連合会三崎出張所

神奈川県三浦市三崎町花暮157
電話430番

革命的新製品・強烈な閃光・永続する輝度
大漁印N式浮標灯
発売元

日興電器商事株式会社

本社工場　東京都板橋区大谷口町842
電話（96）1294・5819番
三崎連絡所　神奈川県三浦市三崎町仲崎143
電話三浦221番

株式会社

横浜銀行
三崎支店

支店長　松野恒夫

神奈川県三浦市三崎町花暮123
電話800―4番

三崎漁業資材株式会社

神奈川県三浦市三崎町西野7
電話三浦449番

賀 正

1957

漁船船舶冷凍装置
製氷冷蔵凍結施設
設計・製作・施工

ダイヤ冷凍機（新三菱重工製）

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）{代表 2173－7番 6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話福島（45）{4914（直通） 6231―5（内線372）

日本冷蔵株式会社

東京都中央区湊町3の8　電話 築地（55）代表 2101番 1121番

鮮度保持剤ホセン・フラスキン

上野製薬株式会社

本　社　大阪市東区今橋2の30
電話北浜（23）4801・4802
東京支店　東京都中央区日本橋本町3の9
電話日本橋（24）2837・4733

株式会社 東京商社

本社　東京都千代田区丸ノ内丸ビル749号
電話和田倉（20）3451・3969番
支店　静岡県清水市万世町2の34
電話清水 1963・3749番
工場　静岡県清水市八千代町2の26
電話 1901番

株式会社

安部貿易商会

東京都中央区銀座東6の7
電話 東京（54）1458・1459

三崎港遠洋漁船船員
消費生活協同組合

組合長　二ノ宮友三郎
専務理事　林　藤一郎

神奈川県三浦市三崎町花暮18
電話 868・875

医薬品・船舶向薬品・一般医薬品

佐藤薬局

神奈川県三浦市三崎町
電話 花暮店 177
電話 諸磯店 610

特約店ホセン・フラスキン
船舶仕込薬品

ハツネ薬局

番神奈川県三浦市三崎町入舟55
電話 462番

謹賀新年

昭和三十二年元旦

テビロン延縄

帝国人造絹絲株式会社

本　社　大阪市西区江戸堀南通り
電話大阪（44）5131・5331番
東京支社　東京都中央区八重洲大和証券ビル
電話　東京（23）４２１番

芦森工業株式会社

大阪市東淀川区元今里北通1の45
電話（37）1231―4・3119・3120

東亜合成化学工業株式会社

東京都港区芝田村町２の８
電話銀座５６３１（代表）

綿・クレモナ・鮪延縄・漁網・撚糸・製造販売

東和糸業株式会社

本社工場　静岡県榛原郡金谷町金谷 1123
電話 229・526・532番
三崎営業所　神奈川県三浦市三崎町花暮136
電話　４０３番
長崎営業所　長崎市樺島町４７
電話　１４８８番

双葉理工株式会社

東京都中野区多田町４２
電話中野（38）５５９２番

湘南化学工業株式会社

本社工場　東京都大田区森ヶ崎９７
電話 大森（76）8126―7
工　場　三崎（三崎ビタミン）
焼津・鹿児島・小樽
出張所　網走・紋別・稚内・青森

太平洋鮪鰹漁船保険組合

組合長　大浜喜一郎
副組合長　寺本正市
常務理事　林　信雄
同　古谷喜一

東京都港区芝浜松町３の２
電話 神田（43）1679

神奈川県漁船保険組合

組合長理事　矢板開一
外役職員一同

横浜市中区日本大通１の１
（神奈川県庁水産課内）
電話 本局 (2) ４９２１番

下田船渠株式会社

静岡県賀茂郡下田町1187
電話下田9・10・53　武浜工場77・242
東京事務所　東京都港区芝田村町4の13
電話芝（43）2539・8655

神奈川県漁業無線協会

会長　長崎勝平
主事　川崎淳一郎

神奈川県三浦市三崎町向崎
電話三浦１１８番

謹賀新年

1957

株式会社 **東京計器製造所**

東京都大田区東蒲田4の31
電話（73）代表 2211番

日新興業株式会社

本　社 大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）
電　話　（23） 1334・2351・9531
東京支店 東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）
電　話　（57） 6804・6810・6811

日本無線株式会社

東京都渋谷区千駄ケ谷4丁目693番地
電話東京（43）代表111—8・431・432
本社 工場　東京都三鷹市上連雀930番地
電話　武蔵野 3611—9

製氷・冷凍・凍結装置
製作・設計・工事請負

株式会社 **中須製作所**

東京都千代田区丸ノ内三菱仲14号館
電話（28）8730—5

海上電機株式会社

本　社　東京都千代田区神田錦町1の19
電　話　（29） 8181—4
研究所　東京都武蔵野市吉祥寺1587
電話武蔵野 3131・6813
営業所　小樽・塩釜・東京・新潟・清水・神戸
下関・境港・宇和島・長崎・鹿児島
根室・八戸・福岡

三幸冷蔵株式会社

東京都中央区月島東仲通12の6の1
電話深川（64）8189（代表）

東京計器・川崎重工業・東京光学機械
代　理　店

南北産業株式会社

静岡県清水市万世町2の2　電話1412・3837
出張所　焼津市中　電話焼津3488
〃　東京都千代田区神田鍛冶町1の5
電　話　（25） 4218

日本石油カルテックス特約店

太平洋石油販売株式会社

本　社　東京都中央区西八丁堀3の5の5
電話築地（55）2181—3
三崎油槽所　神奈川県三浦市三崎町通矢
電話　三浦 750—3（呼）

三崎船舶工業株式会社

取締役社長　平　井　顕

本　社　東京都中央区西八丁堀2の10
電　話　（55） 9611—5番
工　場　神奈川県三浦市三崎町向崎2446
電話　三浦 343・934番

神奈川県漁港協会

会長 鈴 木 十 郎

神奈川県横浜市中区日本大通り 神奈川県水産課内

謹賀新年

1957

荻布漁業部

荻　布　貞　雄

富山県高岡市片原横町1087
電話 657 番

室戸遠洋鰹鮪漁業船主組合

高知県安芸郡室戸町

佐　久　間　竹　松

千葉県千倉町白子1670
電話千歳3・8・9

福吉丸

鈴　木　俊　平

宮城県本吉郡唐桑町字鮪立137
電話 唐桑 3 番

昭和無線株式会社

神奈川県三浦市三崎町花暮157
電話 563 番

日本無線代理店

三崎日本無線

神奈川県三浦市三崎町日の出
電話 三浦 635の乙

村松印刷株式会社

社長 村松節夫

本社 横須賀市大滝町2の15
電話横須賀 254・663・957
工場 横浜市金沢区六浦町4033
電話金沢(7)9992・9993・9131

相互写真製版所

榊原光治

横浜市南区弘明寺町190
電話長者町(3) 116番

㊤ 神奈川県鰹鮪漁業協同組合販売所

組合長 寺本正市

神奈川県三浦市三崎港
(電話三浦860～864番)

謹賀新年

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

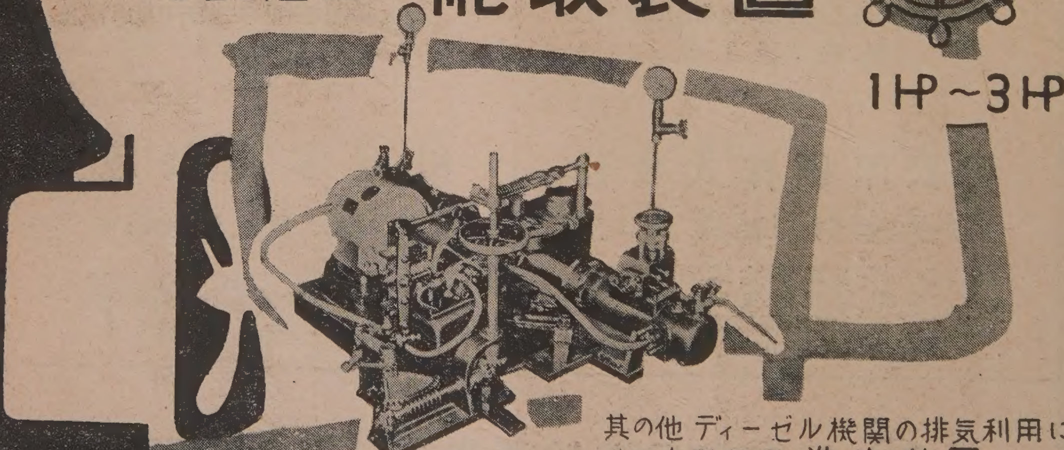
設計・製作・施工

株式会社 **東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2173—7番（49）6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区乗田町47（新阪神ビル）
電話福島（45）4914（直通）9231—5（内線 372）

川崎ヘルショウ式
電動油圧 **舵取装置**

1HP～3HP



其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川（5）7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）（59）6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

謹賀新年

日魯漁業株式会社

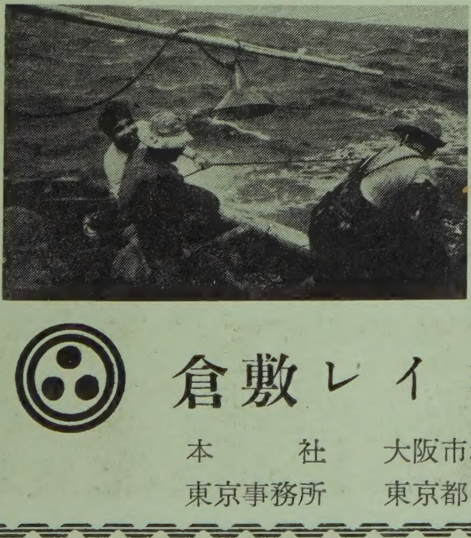
本　社　東京都千代田区丸ノ内2ノ2丸ビル4階
電話 和田倉（20）1851（代表）

大洋漁業株式会社

本　社　東京都千代田区丸ノ内1ノ4新丸ビル6階
電話 千代田（27）代表 1041，1241

倉敷ビニロン クレモナ 万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



クレモナ鮪延縄　神奈川水試江の島丸

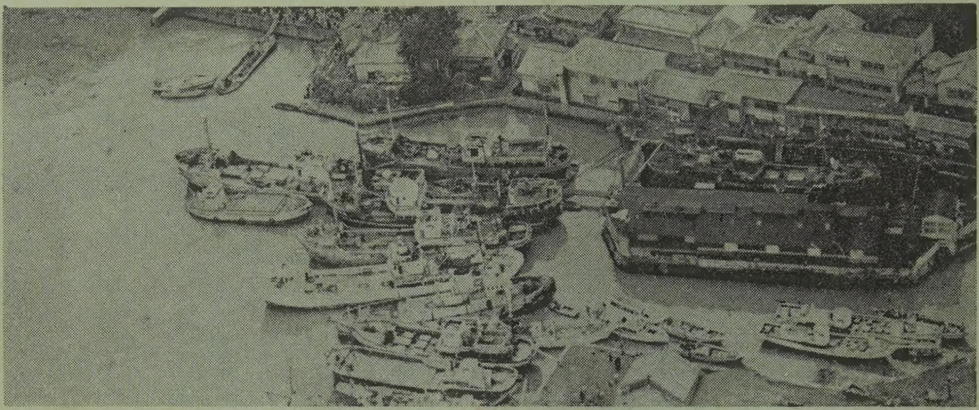
くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町 2の4

謹賀新年

漁船の建造修理の御相談は



総噸数五〇〇噸
長五一米、巾一〇米。深四・五米
ドライドツク　一

長四〇米 巾七・五米）四〇〇屯）
船台に使用の場合
二条軌条式（二五〇屯）　二
四条軌条算盤式（五〇〇屯）　二
船架（船台兼用）

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社工場 電話下田 9・10・53　武ケ浜工場 電話下田 77・242
東京事務所　港区芝田村町 4 の 13　電話（43）2539・8655

営業品目　漁網・延縄・漁具・製造販売
船具・機械電気用品販売　石油元売

日本漁網船具株式会社

本社　東京ビル六階　電話和田倉(20)代表 1841
営業所　下関・函館・大阪・戸畑・長崎　工場　下関
出張所　名古屋・仙台・釧路・小樽　油槽所 川崎・女川・下関